2024年度自己点検・評価活動及び教育DX推進基本計画に関する報告書

2025年1月27日
東洋大学大学評価統括本部
東洋大学デジタル活用推進委員会

目次

第１章　中長期計画の推進と一体的に行う自己点検・評価活動について･････････p.3-24

第２章　教育ＤＸ推進基本計画について･････････････････････････････････････p.25-68
（１）計画策定の経緯と計画の概要
（２）教育ＤＸ推進基本計画１
「入学から卒業まで一貫した教育情報のデータ統合とAI解析結果の最適活用」
（３）教育ＤＸ推進基本計画２
「オンキャンパスとオフキャンパスの学習スタイルの高度化と多様化」
（４）教育ＤＸ推進基本計画３～５

第１章

中長期計画の推進と一体的に行う自己点検・評価活動について

学生ひとりひとりの成長を約束する内部質保証体系図

Internal quality assurance system diagram

●理事会／常務理事会
●法人教学連絡会

学長が理事会・常務理事会の構成員として連携
（法人教学連絡会）法人役員と教学執行部との連絡・調整

大学評価統括本部

【学長（本部長）、教学担当常務理事（副本部長）、副学長・常務理事・事務局長らで構成】 ※全学的内部質保証推進組織

外部評価の実施
内部質保証体制

~Vision~
▶建学の理念 ▶TOYO GRAND DESIGN 2020−2024（法人中期計画）
▶TOYO GLOBAL DIAMOND構想

提言 報告

全学自己点検・評価活動推進委員会

●委員長：内部質保証担当副学長
●委員：各学部・研究科の自己点検・評価活動推進委員会委員長

外部評価の実施
自己点検・評価体制

全学委員会部会

●部会長：学長 ●部会員：全学の各委員会の委員長

【全学】

教学執行部（学長・副学長）
学長室会議（拡大学長室会議）

◆東洋大学スタンダード2021
（学士課程教育全体の教育目標）

◆中長期計画Vision
◆教学基本方針 ◆教学予算編成方針
◆教育課程実施及び授業運営に係る全学方針

◆カリキュラム改訂方針（4年サイクル）
◆３つのポリシーの改訂に係る基本方針・手引き
◆学修成果測定指標に係る基本方針

◆予算編成ヒアリング
◆中長期計画進捗ヒアリング
◆人事計画ヒアリング

各学部・研究科自己点検・評価活動推進委員会

●自己点検・評価活動に係る方針の策定
●外部評価の計画・立案

【学部・研究科】

学部長会議／研究科長会議

教授会／研究科委員会

人材養成の目的・教育目標

P DP/CPの策定	P 教員・教員組織の編制方針	P APの策定
D カリキュラムの編成・実施	D 組織編制・教員採用	D 入試実施
C アセスメントプランの策定と実施・評価（DPに基づく学修成果の測定）	C 教員活動評価	C 入試方式の検証／定員管理
A FD/SD計画・実施	A 組織再編等・教員人事計画の再策定	A 入試方式の再策定

中長期的サイクル 中長期計画の立案・実施・検証

推進支援

全学カリキュラム委員会
▶基盤教育の編成
▶カリキュラムマップの作成支援
▶科目ナンバリング／CAP運用の適正化
▶シラバス点検／シラバスガイドラインの策定

高等教育推進センター
▶FD/SD企画・実施
▶授業評価アンケートの実施
▶成績データの検証
▶学修成果測定結果の集約・検証

連携

IR室
▶新入生／在学生／卒業時アンケートの実施・分析

入学試験委員会
▶全学的な入試方式・定員管理に係る基本方針
▶入試実施に関する連絡調整

【授業・教員】

P ◆学修到達目標の設定
◆授業計画・成績評価方法の策定

D ◆授業実施・成績評価

C ◆授業評価アンケート結果の検証
◆成績評価の客観性・妥当性の検証
◆シラバス第三者点検

A ◆授業改善に係るFD実施

教員

【学部】
▶教員による履修指導、オフィスアワー
▶クラス担任制度などによる学修・生活指導
▶就職／進路指導
▶FD活動
▶学部・学科運営に係る諸業務

【研究科】
▶大学院生の研究指導
▶論文審査
▶研究者／高度職業人のキャリア支援
▶FD活動
▶研究科・専攻運営に係る諸業務

【研究活動】
▶論文執筆・研究発表など研究成果の社会還元

教育に係る内部質保証（３つのポリシーを起点とするPDCAサイクル）

直接的または間接的な支援

学生

【学修】
▶履修計画の立案
▶授業の履修
▶成績、単位取得状況の確認
▶リメディアル教育の受講

【課外活動】
▶ボランティア活動、就職活動、サークル活動等

【質保証への関与】
▶授業評価アンケート
▶新入生／在学生／卒業時アンケート
▶学生FDチームによる活動
▶優秀教育活動賞アンケート

学修者本位の授業実施

授業評価アンケートによる教員へのフィードバック

教職協働

学生支援／就職・キャリア支援／社会貢献／研究等に係る内部質保証

		事務局
学生生活委員会	▶学生の福利厚生、育英奨学、課外活動に関する立案・実施・検証 ▶学生相談、健康管理、ピアサポートなど、ウェルネスに関する立案・実施・検証	学生部
就職・キャリア支援委員会	▶就職・キャリア支援の全学的な方針、進路状況の把握と調査、検証 ▶就職・キャリア支援に関する統計データの分析、求人開拓の促進	就職・キャリア支援部
図書館運営委員会	▶図書館資料、データベース等の管理の基本方針、計画・実施 ▶施設及び設備の計画、運営、予算の基本方針、国内外の図書館との相互連携	図書館事務部
社会貢献センター運営委員会	▶生涯学習／社会貢献プログラムの基本方針、公開講座の開催、広報活動、情報収集 ▶ボランティア活動その他社会貢献に係る支援	エクステンション部
教職センター	▶教員養成の方針の策定、教員養成に係る教育研究 ▶教職課程履修者の支援及び指導 ▶教育実習、介護等体験の準備及び実施に関する支援	教務部
ラーニングサポートセンター運営委員会	▶基礎学力向上に係る支援 ▶レポート・論文作成の基礎的スキルの修得支援 外部評価の実施「ISAS2.0」の受審	教務部
国際教育センター運営委員会	▶留学生に対する教育支援 ▶外国語力強化プログラムの実施 ▶協定校の開拓、各種留学プログラム 国際連携本部	国際部
井上円了哲学センター	▶創立者井上円了の理念継承に係る教育（自校教育）の展開 ▶井上円了に係る資料の調査、研究、収集、整理、保存、公開、展示及び提供 ▶建学の精神、教育理念、思想、事績、東洋大学史等に係る研究並びに社会連携、地域連携、広報の展開	井上円了哲学センター事務室
情報化推進委員会	▶情報化戦略、大学における情報環境整備の企画の協議、運営、評価 ▶情報セキュリティ、情報環境の災害時対策	情報システム部
学術研究推進委員会	▶研究力強化、研究高度化、研究活動の国際化のための中長期計画の策定 ▶重点研究プロジェクト、大型補助金等へ申請する研究プロジェクトの推進 ▶学外研究費の導入 ▶国内外研究機関等との連携強化	研究推進部
産官学連携推進本部	▶産官学連携に関する基本方針の策定・推進 ▶発明等知的財産の発掘、利用及び管理、広報活動 ▶学外人材の受入れと活用 ▶教員及び学生の産官学連携支援	研究推進部

大学運営・財務部会

●部会長：事務局長 ●部会員：事務局部長

提言 報告

外部評価の実施
財務の格付審査の受審

経営企画本部事務室
▶キャンパス計画、学部・研究科設置・改組
▶TOYO GRAND DESIGN 2020−2024（法人中期計画）の具体化

経理部
▶予算方針、編成、執行管理
▶財政計画、資産運用 ▶会計監査

総務部／秘書室
▶学校法人の総務、組織管理
▶理事会、法人の下で行う諸会議の運営

管財部
▶施設・設備充実に関する計画 ▶防火・防災に関する計画
▶物品調達、管理、保守

人事部
▶法人職員の人事計画 ▶教職員の福利厚生、諸手続き
▶SD計画・実施・検証

内部監査室
▶内部監査計画の立案・実施 ▶監事監査／会計監査との連携
▶公益通報の受付・受理 ▶法人全般のコンプライアンスの適正化

大学運営・財務に係る内部質保証

内部質保証に関する全学的方針

〇内部質保証を推進するための基本的な考え方

1. 本学の建学の精神、目的及び各学部・研究科が掲げる教育目標等並びに諸活動の方針の実現に向け、教育研究をはじめとする大学の諸活動並びに組織及び運営について、自主的かつ自律的に自己点検・評価を行い、教学マネジメントのもとで、教育研究水準の向上に資する改革を推進する。

2. 全学における内部質保証の推進を担う組織（全学的内部質保証推進組織）は、大学評価統括本部とし、その下に学部及び研究科ごとの自己点検・評価活動推進委員会を統括する全学自己点検・評価活動推進委員会（以下、全学委員会）、その他の諸委員会、各部局の自己点検・評価体制との連携を図り、全学的な観点に基づき、必要な連絡調整及び提言（フィードバック）を行い、教育研究及び諸活動の企画、運営、検証、改善・向上の一連のプロセスの一層の充実を図る。

3. 自己点検・評価活動の実施にあたっては、自己点検・評価活動の客観性及び妥当性を高めるため、外部評価を行うよう努める。

4. 自己点検・評価活動をはじめとする内部質保証推進の状況について、社会的公表を行う。

5. 教育の質保証について、組織内の意識の醸成と涵養を図るとともに、学生の成長及び教育研究力の向上に資するよう、教職協働のもとで、学内の有機的な連携関係を形成する。

〇内部質保証を推進するための組織の権限・役割等

1. 全学的内部質保証推進組織である大学評価統括本部の下に、学部・研究科ごとの自己点検・評価活動推進委員会を統括する全学委員会を置き、全学委員会の下に学部・研究科ごとの自己点検・評価活動推進委員会を組織し、自己点検・評価活動を推進する。

2. 学部・研究科ごとの自己点検・評価活動推進委員会は、教育目標、「卒業の認定及び学位授与に関する方針」、「教育課程の編成及び実施に関する方針」及び「入学者の受入れに関する方針」に基づく教育活動について自己点検・評価活動を組織的に行い、その結果を全学委員会に報告する。

3. 全学委員会は、学部・研究科ごとの自己点検・評価の状況について相互評価（ピアレビュー）を行うとともに、大学評価統括本部に自己点検・評価結果を報告する。

4. その他の諸委員会及び各部局は、大学評価統括本部の下で、自己点検・評価活動を行い、その結果を大学評価統括本部へ報告する。

5. 大学評価統括本部は、全学的な観点に基づき、自己点検・評価活動を行った組織等に対して、提言（フィードバック）を行い、改善活動を促進する。また、学部及び研究科の自己点検・評価活動については、教学の自主的、自律的な内部質保証を推進する観点から、全学委員会から提言（ フィードバック）を行うことを可能とする。

〇内部質保証を推進するための手続き・運用

1. 全学的内部質保証推進組織である大学評価統括本部の業務、権限、その他運営に関しては、「東洋大学大学評価統括本部規程」に定める。

2. 学部・研究科ごとの自己点検・評価活動、その活動を統括する全学委員会の業務、権限、その他運営に関しては、「東洋大学自己点検・評価活動推進に関する規程」に定める。

3. その他の諸委員会及び各部局における自己点検・評価活動については、大学評価統括本部の下に、各部局と連絡調整を図り、相互評価を行うことを目的と した部会を設け、各組織の協力のもとに進める。

4. 評価基準については、大学設置基準及び大学院設置基準並びに大学基準協会が掲げる大学基準に基づく点検・評価項目等を考慮する。

5. 内部質保証推進体制については、関係組織と連携しながら、継続的、組織的に検証・改善を行い、最適化を図る。

学生を中心に据えた質保証

- 学部・研究科、全学的な委員会組織・センター、事務局運営それぞれの自律的な改革を促すことを第一に考える。

- 全学的内部質保証推進組織である大学評価統括本部は、全体の最適をもたらすため、本部長である学長から、各組織に対して提言（フィードバック）を行う。

- 自己点検・評価結果や学長からの提言をもとに、学長ヒアリング等を通じて各組織との対話を丁寧に重ね、検証と改善を繰り返し続ける。

- 形式的な点検より、成果につながる本質的な問いを互いに投げかけあうこと、対話的に物事を解決することを優先し、その労はいとわない。

- その問いは、「学生の成長につながっているのか」である。

３ポリシーを起点としたPDCAサイクル

- 原則、教育課程の編成単位ごとに３ポリシーを策定することとしており、学部では各学科（学科の下に専攻を置く場合は専攻）、大学院研究科では各専攻の課程ごとに３ポリシーを定めている。

- ディプロマ・ポリシーをはじめとする３ポリシーを起点としたPDCAサイクルを実現するため、各ポリシーの改訂方針を定め、方針に基づき３ポリシーを策定している。

- また、高等教育推進センターのもとで具体的な『改訂の手引き』を作成し、教授会や学部内の委員会等に職員等が出向き、方針が行き届くように説明会を開催するなど、３ポリシーの見直しに際し、学部と協働して全学的に取り組んでいる。

- このようにして全学部が３ポリシーの検証と改訂に取り組み、ディプロマ・ポリシーに示される学習成果をより明確化するとともに、学習成果測定指標の開発に取り組み、成果の把握に努めている。

3ポリシーの策定に関する基本的な考え方

〇ディプロマ・ポリシーの改訂方針

ディプロマ・ポリシーは、大学、学部・学科等の教育理念に基づき、 どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、 学位を授与するのかを定める基本的な方針として、学生の学修成果の目標となるよう、策定する必要があります。改訂にあたっては、以下の方針を踏まえてください。

（ア）全学的教育目標「東洋大学スタンダード2021」に示した東洋大学生として身につける力を踏まえながら、各学問分野の特性を十分に考慮し、学生が身につけるべき資質・能力など、「何ができるようになるか」を明らかにするよう、学修成果の測定が可能な表現にする。また、「人材養成に関する目的」「学生に修得させるべき能力等の教育目標」の見直しと一体的に進める。

（イ）国際通用性及び高大接続の観点を踏まえ、学士力答申で求めている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」「統合的な学習経験と創造的思考力」に即して幅広い能力を修得できるように示す。

（ウ）日本学術会議が策定する「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準」を活用し、合致する分野や隣接する分野の参照基準の内容を適宜取り入れ、学問分野に即した能力及び学びを通じて高めることのできる一般的、汎用的な能力を表現する。

〇カリキュラム・ポリシーの改訂方針

カリキュラム・ポリシーはディプロマ・ポリシーの達成のために 、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施するかを定める基本的方針として示すことが必要です 。改訂にあたっては、以下の方針を踏まえてください。

（ア）ディプロマ・ポリシーに示した学修成果の目標を達成するために、どのようなカリキュラム（教育課程）を編成するのか、順次性を考慮して、各学修段階でどのような能力を獲得する科目を配置するかについて示す。また、専門教育及び基盤教育において連携して教育がされることを踏まえ 、カリキュラムの体系性を考慮して示す。

（イ）学生の主体的な学びを促進することを踏まえ、どのような教育内容・方法を取り入れるのか、具体的に示す。

〇アドミッション・ポリシーの改訂方針

アドミッション・ポリシーは、大学、学部・学科等の教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに 基づく教育内容等を踏まえ 、どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針として示すことが必要です。改訂にあたっては、以下の方針を踏まえてください。

（ア）ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえて、入学前にどのような能力を身につけた学生を求めているか、また「何をどの程度学んできてほしいのか」について、重要な教科などを示しながら、具体的に記載する。

（イ）高等学校段階までの学力の３要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を踏まえて、ディプロマ・ポリシーに示した学修成果の獲得に繋がる、入学段階に求める能力を示す。

（ウ） 入試方法を記載する際は、入学後の教育との関連を十分に踏まえる。

教学における新たな中長期計画の方向性

- 2022年12月開催の学長フォーラムにおいて、矢口学長より、創立150周年に向けた改革として**「未来を哲学する、東洋大学」**といったビジョンのもと、「3万人のLearning Journeyを支える新しい教育の姿の創造」「多様な学生の課外活動及びキャリア形成への支援」「SGU×SDGsによる国際教育の推進」等、これからの東洋大学の教育研究力の向上に向けた10年構想（2024～2033）が宣言された。

Ⅲ. 150周年を見据えた教学中長期計画の基本方針

未来を哲学する、東洋大学

哲学し、科学する力が地球社会の未来をつくる
ダイバーシティが連携を生み、協働が改革を支える

・東洋大学の哲学とは、物事の本質に迫って深く探求し、考察を重ねることであり、諸学の基礎である。この基礎の上に、地球社会のあらゆる課題に取り組む科学として学問研究が成り立つ。科学する力を身につけ、実践することで、東洋大学は、未来づくりに貢献する。

・東洋大学の特徴は、多様性を有していることにある。多様性は困難な状況や課題を克服するための必要条件となる。違いを超えて連携し、協働し、改革を続けることで、伝統を未来に繋ぐことができる。

24

Ⅲ. 150周年を見据えた教学中長期計画の基本方針

	基本方針	目標
1	3万人のLearning Journeyを支える新しい教育の姿（かたち）の創造	学生一人一人が物事の本質に迫って深く考察し、哲学する学びの旅を続ける力をつける。
2	多様な学生の課外活動及びキャリア形成への支援	多様な個性を活かしてキャリアを展望し、柔軟に社会で活躍できる学生を育成する。
3	SGU×SDGsによる国際教育の推進	SGUで培った知識・経験を基に、SDGsをはじめとした国際的な課題の解決に参画できる学生を育てる。
4	ブランドとなりうる連携・共同研究を促進	研究により新しい価値を生み出し、社会的課題解決に貢献することで、東洋大学のブランド力を高める。
5	特色あるリカレント教育の推進と社会貢献活動の拡大	職業や人生キャリアを豊かにするために、多様な方法で学ぶことができる東洋大学リカレント教育モデルを創る。
6	多様性ある教員組織の拡充と教職協働の強化	総合大学としての多様性を強みとして、教職協働により人類の幸福のために奮闘する東洋大学の伝統を堅持する。

27

出典：2022年度学長フォーラム　矢口学長講演資料（2022.12.17）

中長期計画の進め方

- 中期５年、長期10年として考え、以下の中長期計画の期間を設定している。
  長期計画（2024～2033年度）
  　－中期計画（前期）・・・2024～2028年度
  　－中期計画（後期）・・・2029～2033年度

- 中長期計画の基本方針及び目標等を踏まえて、14学部48学科･専攻、15研究科36専攻、全学的な委員会組織・センター等の計95組織それぞれが、教育研究活動等の活性化につなげる計画を策定し、全学が一体となって推進していくことを前提としている。

- また、学部・研究科と全学的な委員会組織・センター等との組織間の連携による東洋大学全体の改革となるように取り組んでいくことを前提としており、計画推進に係る教員と職員との相互の連携、協働により、本学の教育改革力をいっそう際立たせることを重視している。そのため、部署間を超えた横断的なワーキングの形成や教職員合同での検討会の発足など、各所においてあらゆる連携がなされることが学長の方針で明示されており、認められている。

効率的なPDCAサイクルを目指す運営体制（１）

- 本学では、中長期計画と連動した効率的なPDCAサイクルを目指し、従来まちまちであった書式（中長期計画書、自己点検・評価報告書、FD計画書、学長施策申請書等）や運営方法を見直し、**学部等の中長期計画**や**学長施策**【Plan】－**教育研究活動**【Do】－**予算検討**や**自己点検・評価活動**【Check】－**FD活動**や**カリキュラム改訂**【Action】といった、３ポリシーを起点としたPDCAサイクルが一貫性あるものとして機能するようにした。

- 書式の見直しにより、従来よりも記述内容が大幅に削減され、要点のみを把握する運営方法となり、業務進捗管理のしやすさを向上させるものとなった。

- 書面のみでは補えないものに対しては、学長のもとで**「学長ヒアリング」**を年３回（予算、人事、中長期計画のローリング）を実施しており、学長と各組織の長の重要なコミュニケーションの機会となっている。

効率的なPDCAサイクルを目指す運営体制（２）

- また、中長期計画の推進をはじめ教育研究活動の一層の充実を図ることを目的とし、毎年５～６月の学長ヒアリングを終えた後、学長のもとで全学的な観点から**「提言（フィードバック）」**を行っている。

- さらに、本学の教育力強化に資する意欲的かつ独創的、発展的なプロジェクトを支援する制度として**「教育力強化特別予算（学長施策）」**を設け、支援対象プロジェクトに対して特別予算を配分し、教育の活性化・推進を後押ししている。従来の枠組みにこだわらず、中期計画のいっそうの推進となるよう積極的な申請を促している。

- 各組織は、中期計画の進捗状況や実績を客観的に把握するとともに、学長ヒアリングや学長からの提言を踏まえて、PDCAサイクル全体を見渡しながら自己点検・評価活動を実施し、目標やロードマップ、評価指標などの見直し、FD活動や学長施策の企画立案等につなげている。

- これらの運営方式を採用し、効率的なPDCAサイクルを実現を目指している。

(例) 生命科学部生命科学科の中長期計画＆評価シート

※中長期計画、学長施策、自己点検評価（３ポリシー、カリキュラム、入試、教員組織等）、FD活動の各項目をGoogleスプレッドシートのワンシートに集約し、実行力を上げる

中長期計画＆評価シート

①基本方針 1	3万人のLearning Journey を支える新しい教育の姿の創造	担当学科長名	児島　伸彦
目標	学生一人一人が物事の本質に迫って深く考察し、哲学する学びの旅を続ける力をつける。	担当課長名	

		②具体的方策		③中期計画の概要	④中期目標	⑤教育力強化特別施策	⑥ロードマップ 2024	2025	2026	2027	2028	⑦評価指標		⑧年度目標・実績 2024	2025	2026	2027	2028	達成率	進捗
	1	学修成果指標の活用による教育内容の高度化と学生一人ひとりへの学習支援体制の強化	大人数教育から少人数教育による対話型、議論型教育へ展開	・アクティブラーニングおよびグループディスカッションの積極的導入 ・学修効果を最大限引き出せる適正人数での授業運営	・個々の教員の取り組みおよびその効果に関して学科内で情報を共有、議論する。 ・教育DXを活用した対話型授業を導入する。		現状の把握	対話型・議論型授業の試験的導入	学生の学習到達度データを参照し改善	対話型・議論型授業の導入	教育効果を確認しながら運用	専門教育科目のDP3対応科目の比率	目標	—	10%	12.0%	15.0%	20.0%	#VALUE!	
													実績							
	2		資格取得プログラムにおける学外実習等の充実	現行の生命科学部で取得可能な食品衛生管理者および食品衛生監視員、公害防止管理者、バイオ技術者認定、技術士補、生殖補助医療胚培養士などの資格取得支援の継続と支援プログラムの拡充	・資格取得に必要な単位や科目履修を指導する。 ・資格取得に向けた講習会を充実させる。 ・資格に関連した実務研修先および見学施設を開拓する。		現行の資格に必要なカリキュラムの整備	資格取得支援プログラムの整備	外部講師、実務研修先の開拓	資格取得プログラムの更なる充実	資格取得プログラムの更なる充実	資格取得のための支援プログラムの件数	目標	4	4	5	5	6	0.0%	
													実績							
	3		学修成果・成績状況を踏まえた学習指導方法の充実（各種データ活用含む）	・少人数クラス担任制による単位僅少者への面談対応と学科内での情報共有の継続 ・個々の学生の履修状況、学修到達度のデータの活用 ・MATCHplusによる適性検査結果の活用	・各授業科目のDP対応を見直す。 ・学生の学修成果指標データを年次比較する。 ・卒業後の進路を見据えた履修計画モデルの作成を検討する。		各授業科目のDP対応の見直し	2024年度の学修評価の検討とDP対応の見直し	学生の学修成果指標データの年次比較（1-2年）	学生の学修成果指標データの年次比較（1-2-3年）	学生の学修成果指標データの年次比較（1-2-3-4年）	概要で掲げた項目の達成度	目標	60%	70%	80%	90%	100%	0.0%	
													実績							

中期計画の目標及び評価指標とロードマップを明確化

(例) 生命科学部生命科学科の中長期計画＆評価シート

※中長期計画、学長施策、自己点検評価（３ポリシー、カリキュラム、入試、教員組織等）、FD活動の各項目をGoogleスプレッドシートのワンシートに集約し、実行力を上げる

カリキュラム点検・評価

3つのポリシー

評価項目	2023 評価コメント	2024 評価コメント	2025 評価コメント
○DPにおいて、学生が身に付けるべき資質・能力等の学修成果の目標を明確にしているか。	次年度には以下の内容を含める。 ・幅広い知識には生命科学に関するものだけでなく基盤教育科目の履修等で培う社会に関する知識も含める。 ・社会貢献という考えを一歩進めて、現在地球環境及び人類社会が抱える諸問題に意識を向けて、持続可能な開発目標（SDGs）達成に意欲をもって取り組むことのできる人材であることを基準に盛り込む。 ・「自分の哲学をもつ」「本質に迫って深く考える」「主体的に社会の課題に取り組む」人材となっているという東洋大学の教育理念およびこれからの社会に貢献するためのイノベーション力とグローバルな視点を明確に基準に盛り込む。	3ポリシーの改訂方針等を踏まえて点検し、明らかとなった課題、次年度に見直す内容等を記入してください。	3ポリシーの改訂方針等を踏まえて点検し、明らかとなった課題、次年度に見直す内容等を記入してください。
○CPにおいて、学修成果を達成するために必要な教育課程及び教育・学習の方法を明確にしているか。	2024年度に学部を改組して新たに3学科体制とし、より都心に近いキャンパスに移転することを踏まえて、従来のカリキュラムを以下の観点で改訂する。 ・初年次に学部共通の基礎科学科目を配置する。 ・情報リテラシーを育成する科目を配置する。 ・学科の枠を越えて学部所属の全教員の専門分野の最先端を学ぶことのできる科目を配置する。 ・外部の大学や研究機関、産業界、官公庁の専門家を招聘して幅広い知識を得ることのできる科目を配置する。 ・スムーズに専門性の高い研究室に配属して卒業研究に着手できるように、2年次後半から専門コースを設定し、それぞれの授業科目と学生実験科目に分かれたカリキュラムを構成する	3ポリシーの改訂方針等を踏まえて点検し、明らかとなった課題、次年度に見直す内容等を記入してください。	3ポリシーの改訂方針等を踏まえて点検し、明らかとなった課題、次年度に見直す内容等を記入してください。

カリキュラムの点検・評価を同シート内で行い、中期計画の履行と自己点検・評価、ローリングをセットにして進捗管理

(例) 生命科学部生命科学科の中長期計画＆評価シート

※中長期計画、学長施策、自己点検評価（３ポリシー、カリキュラム、入試、教員組織等）、FD活動の各項目をGoogleスプレッドシートのワンシートに集約し、実行力を上げる

	リングでのご指摘を受け、単年度完結ではなく年度を超えた持続的な取り組みとする工夫を取り入れたい。		

学長からの提言（フィードバック）※提言（フィードバック）について、組織内で共有し、次年度の計画等に活かすようにしてください。

項目	2022	2023	2024
学長からのフィードバックコメント（提言） ※記載不要です。	・2023年5月以降、コロナによる行動制限の解除により、学生が主体的にさまざまなフィールドで活動することが期待されます。また、学生の成長に資するよう、教員との対話、学生同士の対話が創出される教育活動の実践をお願いいたします。 ・2025カリキュラム改訂に向けた検討をいただいていますが、カリキュラム改訂を待たずして、新中期計画の方針1「教育DX推進基本計画に描いたオン・オフキャンパスを活用した教育」にあるとおり、教育効果の高いオンデマンド授業を採り入れるなど、多様な学習形態の創出を目指してください。		

同シート内に学長（大学評価統括本部長）からの提言を記載し、計画の推進力を高める

学長ヒアリング（中長期計画のローリング）では何をしたか

学部ヒアリング：1時間～1.5時間（1学部あたり）

事前チェック・メモ作成：10時間程度（1学部あたり）

学長事前確認：1時間（1学部あたり）

およそ**170時間**程度かけて質的な評価と対話を重ねた。

ヒアリング風景

- ヒアリングでは、学長方針の相互理解を促しながら、学長と学部長、学科長、各学部の自己点検・評価活動推進委員会の委員長、関係事務局との目線合わせを行ってきた。

- 計画の上方修正、目標やロードマップの妥当性を確認した。

教育力強化特別予算（学長施策）による改革の推進

- 学長施策では、中長期計画の**推進**や教育力**強化**につながる、意欲的、独創的、発展的な施策を教育力強化特別予算として積極的に支援。とりわけ、中長期計画の６つの柱に関連したプログラム強化にも有効に活用するため、学長ヒアリングや学長からの提言等の機会を通じて対話を重ね、改革を推進している。

2022
採択件数：35 件（新規18件/継続17件）
採択額　：66,717 千円

2023
採択件数：31 件（新規6件/継続25件）
採択額　：70,476 千円

2024
採択件数：40 件（新規15件/継続25件）
採択額　：71,334 千円

学長施策
特設サイト
QRコード

〇主なプロジェクト

大学と白山地域をつなぐ**フィールドワークプログラム**：ハブ機能の構築に向けて（**社会学部社会学科**／2,172千円／新規）

これまで社会学科で蓄積してきた社会調査実習をベースに白山地域の諸団体と連携を深め、また文京区全体へ広域化し、東洋大学が白山地域連携のハブ機能を果たす仕組みを創造することを目的とする施策。本施策の実施にあたっては、地域にコミットし、様々な連携を重ねながら、課題解決等を実践している人材を兼任教員として任用することで、現場に根差した実践教育を展開していく。

学生が主体的に関わり学びと実践を強化する**学食運営プロジェクト**（**食環境科学部**／5,859千円／新規）

朝霞キャンパスの学生食堂を学びのフィールドとし、食堂委託会社、教員、事務局が連携することで、メニュー開発、コスト管理、衛生管理、販売戦略、売上分析等を実践する。チームで活動することで、社会で求められる力を育む、学部としての取り組み。
業務委託への依存度を下げ、教員が深く本施策にかかわること、さらなる学外連携を構築することで、広がりのある施策。

新ポスト（兼任教員制度）導入による教育のさらなる活性化

- 学部・学科のカリキュラムを高水準化、魅力化するプログラムの推進を担う**新ポスト**（兼任教員と呼称）を2025年4月より導入し、中長期計画の推進、教育の活性化を後押ししている。

教員人事制度上の課題
- 教員の負担感 -

- 教員人事制度の硬直化
- 新たな教育活動を生み出すリソースの枯渇
- 高いST比
- きめ細かい教育の限界

課題解決と目指す姿の実現へ

〇 卓越した実績を持つ実務家や国内外の他大学教員を登用
〇 学部のプロジェクト推進等を後押しする教育活動に特化した教員を登用
〇 少人数教育の実現、ST比の緩和、教員の研究時間確保への寄与も期待

参考：学部等からの申請状況（2025年4月着任）
公募件数 17 枠、内定件数 11 枠（2024年12月20日時点）

目指す姿
- 教育効果を最大化 -

- 新しい教育の姿の創造
- 先端的・先進的な厚みのある教育のさらなる推進
- 一人ひとりの学修の高度化

〇主なプロジェクト

現実社会を広い視野で捉え、ゼミナール形式による政策提言の機会を拡充する（経済学部総合政策学科）

総合政策学科は、社会の課題に対し、広い視点で解決策を提示する実践的な教育を重視している。新たに兼任教員を採用することで、より広い視点と長期的な視点で現実社会の課題を捉え、解決のための構想力へのヒントを学生に提供できる教員を兼任教員として採用することで、新たな時代に即した形で実践教育を強化し、学科の特長を伸ばしていくことをめざす。学科の特色をさらに伸ばし、学生の問題意識を高め、社会での実践力を強化することが期待される。

AI時代におけるデザイン分野の変革に向けた社会実装デザイン教育プログラム ～学生の主体性・創造性・起業家精神・情報発信力・社会的倫理の醸成～（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

この取組は、AI時代のデザイン分野における革新に対応し、学生の主体性、創造性、起業家精神等を育成することを目的とする。デザインサマーセミナープログラムやデザイン演習を通じて、社会課題解決に向けた企画・実践力を養い、社会的倫理やビジネスモデルの視点を取り入れた教育を提供する。第一線で活躍するデザイナー・設計者等を採用し、兼任教員は実務経験を生かし、学生に現場感を伝え、社会実装に向けた指導を行い、起業家やデザイナーとして社会で活躍する人材を輩出する。

2022～2024年度における活動のあらまし

2022年12月	2022学長フォーラムにて、矢口学長から創立150周年に向けた教学中長期計画の基本方針が宣言された
2023年4月～	中長期計画の推進と自己点検・評価活動を一体的なものと捉え、2023年度より実施する中長期計画の策定や自己点検・評価活動から、PDCAサイクルが一貫性あるものとなるよう書式や方法を見直した
2023年8月	2023学長フォーラムにて、各組織より中期計画の計画概要が中間報告された
2023年9月～2024年3月	2023年9月～2024年3月には、内部質保証×教育DXの外部評価と意見交換を実施した
～2024年3月	14学部48学科・専攻、15研究科36専攻、全学的な組織・センターの計95組織が中長期計画を策定した
2024年5月～6月	学長ヒアリング（中長期計画のローリング）を実施した後、学長から各組織に対し提言を行い、中長期計画初年度である2024年度から早速、計画の修正依頼を行った
2024年8月	2024学長フォーラムにて、副学長および全学委員会・センターの長から中長期計画が報告された
2024年10月～11月	学長ヒアリング（予算）を実施し、次年度計画や学長施策を中心に意見交換を行い、計画の見直し等を行った
2025年2月～3月予定	学長ヒアリング（人事）を実施し、教員組織編制上の課題や中長期的な人事計画、兼任教員制度の活用・検討状況等について意見交換を行う予定
～2025年3月予定	2024年度の中長期計画の実績把握やカリキュラム点検･評価等を行い、次年度のFD計画等を立案する予定

中長期計画における特長的な取り組み（抜粋）

学生の思考力を鍛える共同学習、実践的教育
学部の意向＝少人数教育化を図り、ゼミ・研究室改革を進める。

文学部教育学科
「ゼミ×ゼミコラボ」(仮称)と題した学部・大学院連携プロジェクトであり、学部生向けの先行履修制度の促進のみならず、大学院生が学部の授業に参加し支援や助言を行い、その指導経験を評価する仕組みを構築予定。連携によって学部生・大学院生双方にとって良い教育効果が期待できる。TAによる授業参画も視野に入れて検討。

国際観光学部国際観光学科
2025カリキュラムより、４つの専門領域（ツーリズムマネジメント・ホスピタリティマネジメント・観光地域計画・国際観光文化）ごとにPBL演習型科目（２年次配当）を開設。ただし、選択科目で履修者数の見込みが３割程度とのことで、多くの学生が履修するよう、学修指導体制の見直し、TA/SA活用など、評価指標やロードマップの見直しが必要。

生命科学部生命科学科
教育DX活用した対話型授業を導入し、アクティブラーニングやグループディスカッションなどを積極的に導入。オンデマンド授業を対面授業の補完や、反転授業へ活用するなど、新校舎を有効に活用し、教育効果を高める少人数教育、授業運営を計画。

理工学部
学生の学びを保証するための環境整備計画の立案に資するようなアカデミックプランの再構築を進める。また、実験・実習の充実をもたらすにあたっては、施設の老朽化、狭隘化への対応や教育のテクニシャンの必要性も。

学修成果、各種データ利活用／学習指導の充実

文学部英米文学科
学びの集大成となる卒業論文の充実施策として、新入生ガイダンスから始まり、各学年のゼミの充実、３年次からの段階的な卒論指導体制のもとで４年次に接続し、卒論ルーブリック評価を用いた学習成果の向上を目指す計画。高等教育推進センターとの連携により、学修成果の把握・可視化とその結果の活用が期待できる計画。

福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科
各学年での演習内での学修指導を軸とし、各教員が学生一人ひとりの成績状況や学修成果測定指標の達成状況を把握し、学生自身の強みやキャリア形成支援に活用することを計画。高等教育推進センターとの連携により、学修成果の把握・可視化とその結果の活用が期待できる計画。

キャリア教育＆インターンシップ教育の実質化

国際学部国際地域学科
人事コンサルタントの協力を得て学科のキャリア教育方針を策定し、学生のキャリア設計とカリキュラムの連動させた、入学から卒業までのキャリアマップ作成に着手する計画。キャリア教育の実質化を図る取り組みであり、就職キャリア、高等教育推進センターとの連携を図り、学生データと紐付けながらDPの達成、学生の目標達成などが期待できる計画。

経営学部経営学科
キャリア教育の充実にあたり、学生の就業力育成、就活満足度の向上、より積極的な就活マインドを持たせる取り組みとして、実務経験が豊富な優れたビジネスパーソンを兼任教員として採用する計画を策定。加えて、兼任教員には第２部ゼミを担当してもらい、学部のキャリア教育の充実および第２部ゼミの安定的な開講を目指す。

アスリートへの学習支援強化、障がい学生への合理的配慮の充実

健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科

アスリート学生の多様なキャリア形成支援を目的とし、部活動や競技成績優先の考え方を改め、文武両道とキャリア形成の両立を目指す。８つのユニットの専門性を活かし、競技パフォーマンスの向上のみならず、セカンドキャリア・デュアルキャリアを含む多様なキャリア形成への意識付け、学生の個々のニーズに合わせた学習支援を行う。

INIAD

全学的な合理的配慮の支援体制はセーフティーネットとして位置付け、学生から挙がってきた配慮要請・ニーズをSlackを通じてリアルタイムで共有・対応する学部独自の支援体制を確立。定期的に学生相談室(専門家)との情報共有も行っており、現体制下でウェルネスセンターを頼るケースは生じていないが、学部の主体性と教員の参画体制として、他学部の模範的活動を展開。

NEXT SGUとなる国際教育、海外研修の展開

TOP GLOBAL UNIVERSITY JAPAN

経済学部国際経済学科

留学派遣に向けたセミナーを開催し、プログラム概要の他、留学経験者による体験談、学内奨学金制度等について説明。国際経済に係る多様な資質を育成するにあたっては、セミナー開催のみならず、日本人学生・留学生との正課内外での交流プログラムを展開するなど、国際教育センターとも連携し、目標設定とロードマップの見直しが必要。

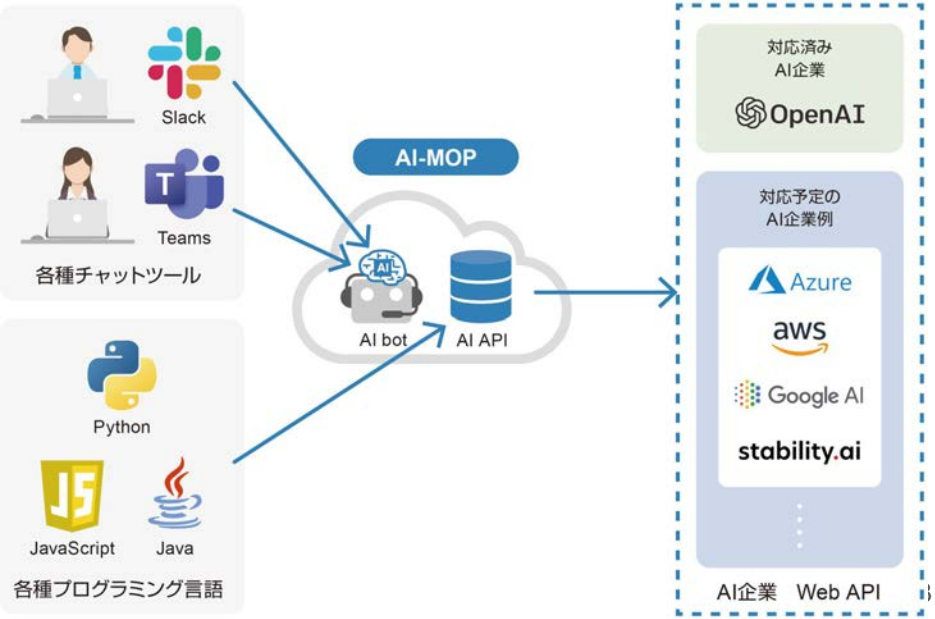
社会学部国際社会学科

「国際社会体験演習」等を通じて社会課題に対する関心を高め、各自の関心にしたがって、長期留学や海外インターン、国内外のボランティアなど多様な現場体験プログラムに参加し、多文化共生と多様性の支援・活用を実践的に育む計画。一方で学生の経済的負担が高い課題があり、持続可能な形となるよう2025カリキュラムで見直しを進める。

情報連携学部（INIAD）の特長的な取り組み

- 全学生が有料版GPTを利用可能　—GPT-4を活用した教育システム
  - INIADでは、2023年4月から全学生がGPT-4を使えるようになる「AI-MOP」（AI Management and Operation Platform）を開発、導入。
  - この教育システムは、INIADの教育革新をリードし、学生が最先端の技術を活用して学びを深めることができる環境を提供することが狙い。

- AIと対話を繰り返しながら理解を深める
  - AI-MOPを活用し、学生がGPT-4を使って自分の考えを深め、より高度な思考力を身につけられるように、適切な環境･指導･教材の提供を積極的に進めている。
  - AI-MOPの目的は、生成AIを利用した自学自習を可能にして学生たちの教育効果を高めることにあり、また生成AIのAPIをプログラミングで利用できるようにして、生成AIを利用したシステム開発のスキルを学ぶこともできる。
  - 学生はChatGPTを利用して疑問を解決したり、対話を繰り返して理解を深めたりできる。また、AI利用の研究や課題に取り組むこともできる。
  - このようにChatGPTを学生が適切に活用していくための教育を行い、一方教員は学生の利用状況を追跡し、学習の進捗を確認や不適切な使用がなされないようシステム監視も行っている。



INIAD生の活躍

生成AI活用の研究成果

AI Study Map

生成AIとマインドマップ学習をかけあわせた、大学生向け学習支援Webアプリケーションアプリです。このアプリケーションでは、学習テーマを入力すると、ChatGPT がそのテーマを学習するためのマインドマップを、自動的に生成します。

たとえば、Python というキーワードを入れれば、基本的な構文や関数といった、学習トピックが表示されます。各トピックの確認問題に正解すると、その項目を発展させた次の学習トピックが表示されます。このような学びを通じて、その学習テーマを体系づけて学習することを支援します。

☆いにあどなび☆

大規模言語モデルを活用したINIAD のナビゲーションアプリを開発しています。INIAD のBLE（Bluetooth Low Energy）インフラを用いて現在地を認識し、さらにChatGPT に行きたい場所を話しかけると、現在地から目的地までのナビゲーションを行うことができます。

たとえば、「3410 研究室」と言えば、その部屋までのナビゲーションが開始されます。ナビゲーション中に施錠されたドアを通るときには、INIAD のAPI を用いて自動的に解錠してくれます。また、対話的に部屋の照明などを操作する機能も備えています。

卒業研究の成果

No! 三密サイネージ

デジタルサイネージを用いた密の回避を目的として作りました。サイネージについているカメラから人物を認識して、AI を用いてその距離を解析します。その結果密が検出された場合に、サイネージから警告を出し、ソーシャルディスタンスを促します。今後このアプリを大学に設置して実験を行うことで、実際にこのアプリが密の回避に有効かどうかを検証します。

学外での活躍

Tokyo Train Delay（東京遅延情報）

「Tokyo Train Delay（東京遅延情報）」はオープンデータを利用し、首都圏の交通機関の遅延情報をリアルタイムでツイートするX（旧Twitter）のbot です。また、より詳細かつ簡潔に見やすくリアルタイムの列車遅延情報を提供するWebアプリも開発しました。英語にも対応済みなので、日本人だけでなく外国人の方も、都内の円滑な移動や快適なくらしを実現するために利用できます。

第２章

教育ＤＸ推進基本計画について

（１）計画策定の経緯と計画の概要
（２）教育ＤＸ推進基本計画１
　　「入学から卒業まで一貫した教育情報のデータ統合とAI解析結果の最適活用」
（３）教育ＤＸ推進基本計画２
　　「オンキャンパスとオフキャンパスの学習スタイルの高度化と多様化」
（４）教育ＤＸ推進基本計画３～５

（１）計画策定の経緯と計画の概要

2020年度春学期以降、新型コロナウイルス感染症への対応下において、学生のための教育研究活動を維持していくにあたり、矢口学長より

「遠隔授業の高度化と質保証にかかわる将来構想検討会議の設置について」

が示され、下記について検討する事となった。

- ポストコロナ対策として、対面・非対面授業における授業設計の研究
- ICT活用推進施策、施設・設備に関する環境整備等の支援体制の充実
- 学士課程教育における質保証の為の高度な授業改善
- カリキュラムマネジメントを目的とした対面・非対面授業に関するFDの体系化

（2020/6/20学部長会議）

その結果、7ヵ月の策定期間を経て**「東洋大学教育DX推進基本計画」**を策定した。

（2021年1月15日学部長会議）

（１）計画策定の経緯と計画の概要

東洋大学教育DX推進基本計画の詳細は次のとおり。
本書では計画１・２について報告する。

＜教育DX推進計画＞

計画１：入学から卒業まで一貫した教育情報のデータ統合とAI 解析結果の最適活用

計画２：オンキャンパスとオフキャンパスの学習スタイルの高度化と多様化

計画３：建学の精神の具現化を目的としたリカレント教育の世界展開（国内地域含む）

計画４：学生の成長を中心に据えた体系性ある FD ・ SD プログラムの構築と学内業務の断捨離

計画５：デジタル活用推進本部（仮称）による推進体制と外部人材を採り入れた評価体制

第２章

教育ＤＸ推進基本計画について

（１）計画策定の経緯と計画の概要
（２）教育ＤＸ推進基本計画１
「入学から卒業まで一貫した教育情報のデータ統合とAI解析結果の最適活用」
（３）教育ＤＸ推進基本計画２
「オンキャンパスとオフキャンパスの学習スタイルの高度化と多様化」
（４）教育ＤＸ推進基本計画３～５

（２）教育ＤＸ推進基本計画１

教育DX推進基本計画１における取り組み内容と、設定した指標の達成状況について報告する。

計画１：入学から卒業まで一貫した教育情報のデータ統合とAI 解析結果の最適活用

学生（学習者）本位として考えた場合、その理念と対応するアクションは次の通り整理される。

現状	改善点
在学生アンケート・卒業時アンケート等の実施時期を中心とした大学が主体となっている定点観測的な状況把握。	大学の一方的な要求に依らない、DXを活用した常時観測型の学生の状況把握。 （学生行動履歴データ等を学修指導で活用）
学生が将来や進路を考える時期は、学期毎・成績発表のタイミングである、という先入観を根底にした情報発信。	学生一人ひとりの自己を見つめるタイミングは千差万別。各人のタイミングに見合った情報提供、履修科目選択・進路検討機会の柔軟性。 （自己省察機会の設定）
大学→学生群に対する最大公約数的な情報発信。	情報発信者本位のアプローチから情報受信者本位への変化。 （円滑な情報提供）

■計画のイメージ

"3万人のLearning Journey"の羅針盤となるCLMS（イメージ図）

～デジタルを活用した教育を実現、入学から卒業、卒業後も学修データを活かせるシステムへ。統合型LMSへの進化～

リカレント教育

- 補習・導入教育 e-ラーニング
- 補習ログ
- 夏季及び春季の授業期間外学修
- 基礎的科目のオンデマンド型授業の実施
- ブレンド型授業
- 履修計画時期 自身の目標と学修ログ分析
- 履修ナビ
- アプリ
- AL 反転授業
- 形成的評価の実施
- 大学院科目や高学年科目の先行履修
- 実務家との共同授業
- 卒業時・卒業後
- 提供
- 可視化

※上記は計画１と連動性ある計画２の取り組みを紹介しています。

問い

発見！気づき！

目標

入学・初年度

将来目標 学修計画

最適な学修 学生指導

フィードバック

コメント

CLMSアプリ

学修ログ・シラバスデータをAIで解析

学修到達目標　学修時間　課題の量

集積データ → 入学ギャップ解消 学修目的の理解

WEB学修指導

健康メンタルサポート

Toyo Net-ACE等（既存LMS）

つまずき迷い

2-3年次

振り返り 目標の再設計

喜び

世界に発信！

大学公式サイトで紹介

学修パートナー × 分野を超えたチーム学修

マッチング・発信

仲間との交流

課外活動

CLMSアプリ

留学など

制作物 実習経験

その他学びの成果

学生の成長過程を可視化！

自己省察

学修経験を生かす

アドバイス

表彰

評価する

CLMSアプリ

切磋琢磨する学修！ キャンパス全体で学び合う！

4年次

社会を考え、自己を見つめる

創造的思考力

態度・志向性

学びを通じた成長の可視化

卒業論文・研究の準備や執筆に活かす

就職活動のエントリーシートの記載に活用

ポートフォリオ化

これまでの様々なログを集積＆分析

CLMSアプリ

学生の学修データ等を活用した大学運営を実現！

将来のビジョン 自己実現

知識活用力

創造的思考力

態度・志向性

（２）教育ＤＸ推進基本計画１

前述のイメージのもと、学生とデジタル的な接点を設けるために、スマートフォンアプリ（東洋大学公式アプリ）（iphone・Android端末）において開発し、以下の機能を搭載している。ここでは主たる機能であるMy Journey～TOYO Naviの4機能と活用事例について報告する。

〔東洋大学公式アプリの機能〕

・My Journey	（学生たちの自己省察を促す仕組み）
・TOYO Discover	（イベントや学生体験につながる各種情報の周知＜ポスター形式表示＞）
・TOYO Calendar	（学年暦や運動部スポーツ試合観戦カレンダー、各種窓口時間帯など）
・TOYO Navi	（学修成果確認システム、各種FAQや情報ソースへのアクセス）
・TOYO PASS	（本人確認QR表示、入場管理チェクイン、読み取り後の履歴管理など）
・TOYO Info	（特定学生へのお知らせ機能・11言語の翻訳）
・Class	（履修に関する情報、時間割、講義メモ、出欠記録、ToDo、休講情報のプッシュ通知など）
・各種システムへのシームレスなログイン（シボレス認証） ToyoNet ACE（LMS）、ToyoNet G（学務システム）、学修成果・成績確認システムなど	

10:10
東洋 さん、
おはようございます。
4/1（金）
白山 キャンパス
23°
25°
23°
ToyoNet-ACE
Calendar
Discover
TOYO-PASS
卒業後の進路相談会のお知らせ
時間割 (金)
休講・補講 3
ToDo
1 9:00 10:30 哲学A 2312
2 10:40 12:10 ベンチャー・サイエンス得論 6101
3 空き
4 14:45 16:15 休講 エネルギーの科学A 3102
5 16:30 18:00 自然科学演習Ｂ ４＃Ａ 5521
HOME
CLASS
JOURNEY
NAVI
INFO

10:10
TOYO-info
未読のみ
TOYO-discover
すべて見る
TOYO NEWS
すべて
トレンド
My設定
学生相談室の利用について
学生支援
2022/3/28
留学フェア開催のお知らせ
国際交流
2022/3/24
2022年度学年暦、履修登録スケジュール
授業
2022/2/24
HOME
CLASS
JOURNEY
NAVI
INFO

10:10
My Journey
2022/5/15 12:00
回答結果発表！ 他の人と比べて自分はどうだったかな?
2022/4/28 12:00
この春に希望通りの履修計画や学びの目標は立てられましたか?
立てられなかった
少し不安はあるけど、友達も同じ大学なのでこれからの大学生活が楽しみ
みんなの回答状況
× あとで

10:10
出欠記録
出席 3 | 欠席 1
第1回 出席 遅刻 欠席 休講
メモ(100文字)
第2回 出席 遅刻 欠席 休講
電車遅延の為15分遅刻した
第3回 出席 遅刻 欠席 休講
補講: 12/15
第4回 出席 遅刻 欠席 休講
メモ(100文字)
第5回 出席 遅刻 欠席 休講
レポート提出
第6回 出席 遅刻 欠席 休講
メモ(100文字)
第7回 出席 遅刻 欠席 休講
メモ(100文字)
記録する

（２）教育ＤＸ推進基本計画１

・特長的な取り組みとして、学生の成長機会となる自己省察を促す仕掛け（My Journey）機能を備えており、３つのJourneyで構成している。

MyJourney機能概要

問いかけJourney

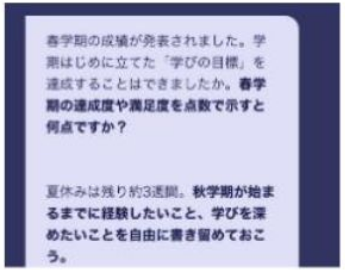
自己による振り返り
投稿Journey

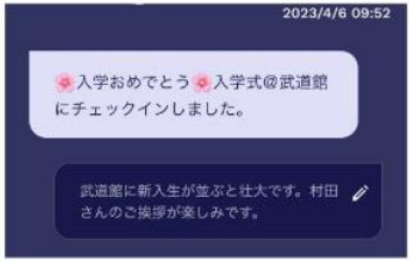
イベントJourney

大学から配信（1～2か月に1回程度）
選択式のアンケートと自由記述形式

学生が自由なタイミングで記述
自由記述＋アイコン

イベント受付を行うと質問がポップアップ
記述も可能（比較的短文を想定）





（２）教育ＤＸ推進基本計画１

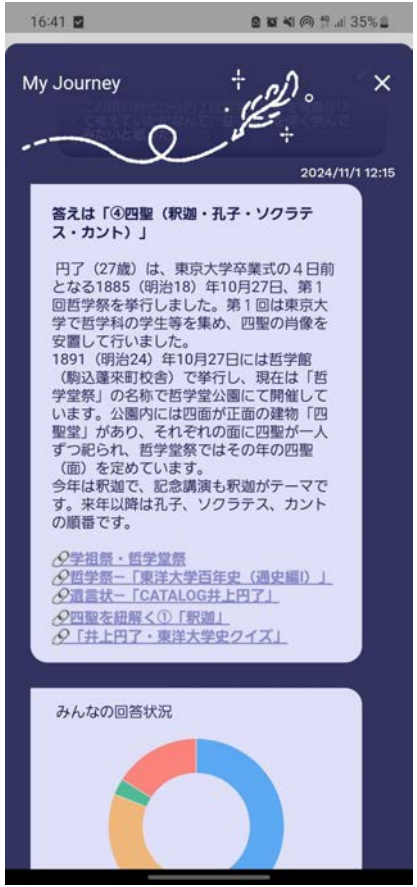
①「問いかけJourney」

・大学から学生向けて学習状況や進路に関するメッセージをアプリのプッシュ通知で学生にダイレクトに配信し、アプリ内に履歴としてメッセージを残す。

・愛校心につながるメッセージや、留学・就職活動等の正課外活動における有益な情報を併せて提供する。

・学生のキャンパスライフに沿った問いかけをダイレクトに届けることで、学生の自己省察を促す。

・計画１において最も重視した機能。



（２）教育ＤＸ推進基本計画１

②「イベントJourney」

・同アプリのTOYO-Pass機能でQRコードによるイベントチェックインが可能。My Journeyに残る。

・入学式、卒業式をはじめとする式典や学内イベントの入場管理、運動部の観戦チケットを試合会場にて配付する際に活用。就職・キャリア支援部の就職セミナー等における、メモや記録を残すことができる。

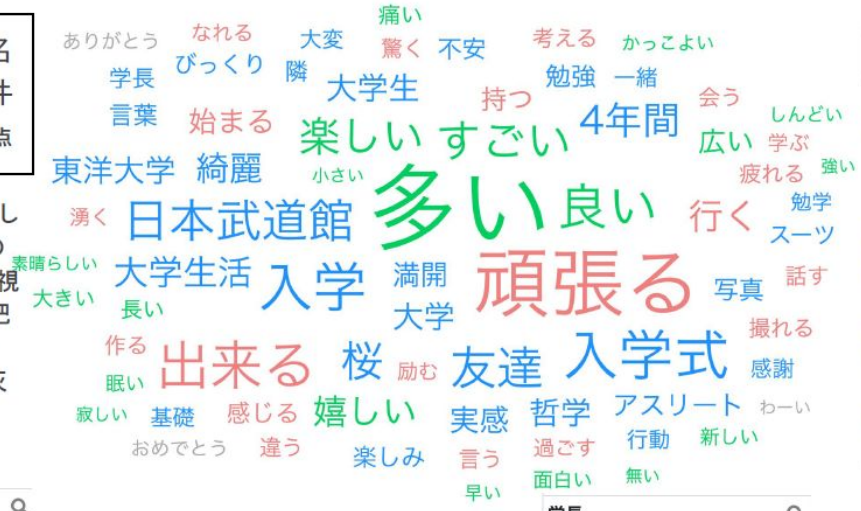
・イベントチェックイン時の学生のコメントをAIテキストマイニングにより学生の心情を可視化することができる。

入学式での公式アプリを利用した取り組み②

情報企画課／学生支援課

スキャンで入場：7,327名
新入生の記述：1,220件
※2024年4月12日(金)10:00時点

新入生の記述をテキストマイニングしてワードクラウド化したもの。単語の出現頻度に合わせて大小をつけて視覚化。注目度や重要度をひと目で把握。単語の色は品詞の種類（青色：名詞、赤色：動詞、緑色：形容詞、灰色：感動詞）



哲学

この単語が使われている文

哲学から始まるという言葉が、自分にぴったりだと感じた。
諸学の基礎は哲学にあり
自分の哲学を持つ
「諸学の基礎は哲学にあり「独立自活という建学の精神に惹かれて入学したので、自分の頭で...
哲学するの哲学は人によって色々な意見や考えがでるから自分の思う哲学を見つけて社会で活...
哲学
諸学の基礎は哲学にあり
哲学を用いて法学を詳しく知っていくことで考える力を養い、より深い学びを得られる
哲学の大切さが分かりました。
井上円了先生の「諸学の基礎は哲学にありという言葉があるように常識や先入観にとらわれず...
哲学最高👊
真理は哲学にあり

アスリート

この単語が使われている文

同い年でアスリートとして活躍している人がいることを実感した
4年生の研究の話やトップアスリートが7人もいて自分も何か頑張るうと思った。
アスリート頑張る！
アスリート紹介ですごい経歴を持った人ばかりですごいた
アスリートすごいた
アスリートの方々も多い、これからの活躍を見たいと思ったし応援したいなって思った。
アスリート別格
アスリートが同期にたくさんいました
アスリートたちがすごいた！
アスリートに感動！
アスリートすごい
新入生アスリートがかなりすごい人たちだった
あと、アスリートの生徒を前に出して紹介する必要性がわからなかったなぁ…？

学長

この単語が使われている文

学長の話良いた！
…自分の中にあるかもしれないという学長のお言葉がとても心に刺さった。
学長や理事長などの話しをしっかり心に留め、これからの大学生活を頑張るていきたいと思い…
学長さんの話を聞いてなんにでも挑戦してみようと強く思った。
学長の言葉に感銘を受けた
学長の話に感銘を受け、これから4年間を頑張るていこうという決意が出来るました。
…自分の中の価値との不協和音かも(学長
学長のお話に感銘を受けた。
入学式では学長や理事長などの話の中で「自分からや「自分でという言葉やそのような趣旨の…
学長からの祝辞の言葉
学長話上手い😊
学長や理事長の話を聞いて出来るのだけのことをこの東洋大学でやり、ちゃんと努力出来るよ…
学長、理事長が言っていたことが心に残りました。

※「自分の中の価値との不協和音かも」との記述は、学長の式辞を引用したもの。学生がネガティブな気持ちを記述したものではありません。
学長の式辞「自分の中にあるその不安は、他者による評価に対するものだけではなく、その奥にある自分が大切にしたい価値との不協和音かもしれません。」

（２）教育ＤＸ推進基本計画１

③「投稿Journey」

・学生の自己省察を促進するため、学生個人のタイミングで自由に投稿する。
（感じたこと・気付き・思い・悩み・出来事・発見・不安　等）

・入学時に投稿数が増えるが、<u>継続的・自発的な投稿は低調。</u>

・<u>生成AIを活用した対話型Journey</u>へ改修し、学生の自己省察を通じたキャリア形成における仕掛けを

・そのためのAI機能を内製。12月現在プロトタイプ完成。
実験→仕様確定した後、2025年4月に東洋大学公式アプリに実装予定。

投稿Journeyの意義

日々の振り返りを行うことによる自己省察が、自身のキャリア（就活）選択に役立つ

使用されない・続かないモチベーションの課題

- 現状、投稿Journeyの意義が十分に伝わっていない可能性もあるが
- 十分に伝わったとしても漠然と「将来のためになる」というモチベーションでは続きづらい（遅延価値割引）

単純に振り返るだけでは自己省察が深まらない課題

- 日々起きたことを単純に記録するだけでは自己省察は深まらないと言われている
- 自己省察を深めるためには、できごととそれに伴う感情を振り返り、分析していくことが必要

生成AIを活用したフィードバックコメントの生成 AI活用

使用し続けるモチベーションのために

- 振り返りに対してフィードバックコメントをつける→生成AIで作成
- コメントをもらえれば日々振り返りを行うためのモチベーションになる
- コメントはその都度別のものが届くので比較的飽きにくい

自己省察を深めるために

- フィードバックコメントは学生の振り返りに合わせて自己省察を深めるものにする
- 生成AIを使えば内容に基づいて適切な方向性のコメントをつけることができる

（２）教育ＤＸ推進基本計画１

TOYO-Discover機能

- キャンパスライフにおける、多種多様な学習や体験の機会に関する情報提供を学内掲示板の様に、ポスター形式で提供することができる。
- メールによる情報配信、学務システムからの通知情報では既読率も分からず、学生の関心を惹くことができない。
- 発信者本位→情報の受信者（学生）本位見やすさ、配信時期、視覚的な工夫、イベントエントリー・動画コンテンツへの誘導
- 既読率が低いケースを把握→改善課題→既読率の改善

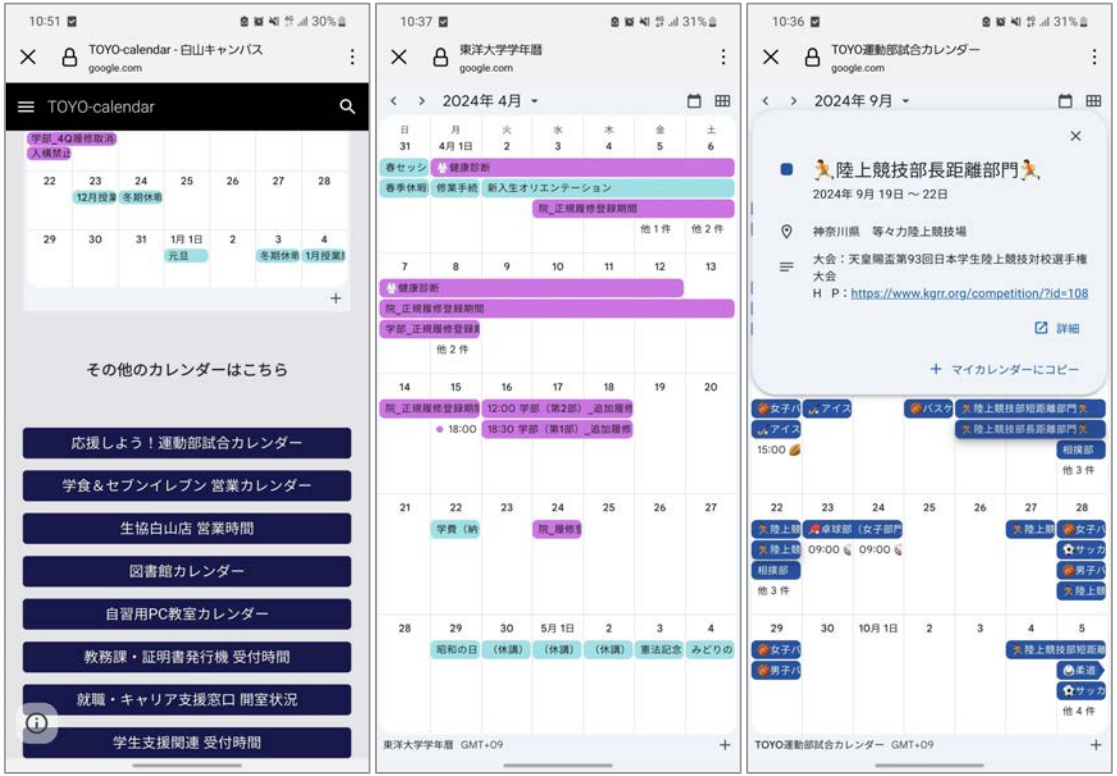
（２）教育ＤＸ推進基本計画１

TOYO-Calender機能

・各部署がバラバラに発信していたイベントスケジュール表示機能を公式アプリの機能として実装。

【掲載例】
教務窓口開室日時
履修登録期間
長期休暇期間
就職相談窓口
生協営業日
食堂営業日
図書館開館日
運動部の公式試合日
証明書発行機受付時間

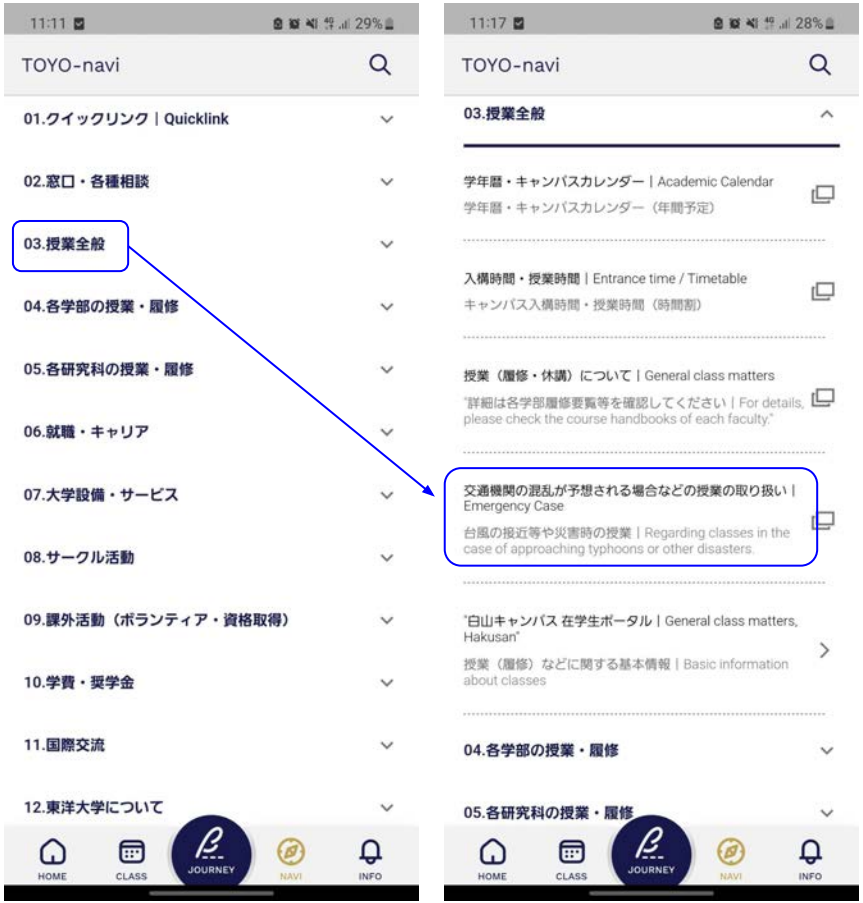
・Web上を探し回ることなく、確認可能。
・Googleカレンダーを活用し、部署間でデータ連携しながら構築。



（２）教育ＤＸ推進基本計画１

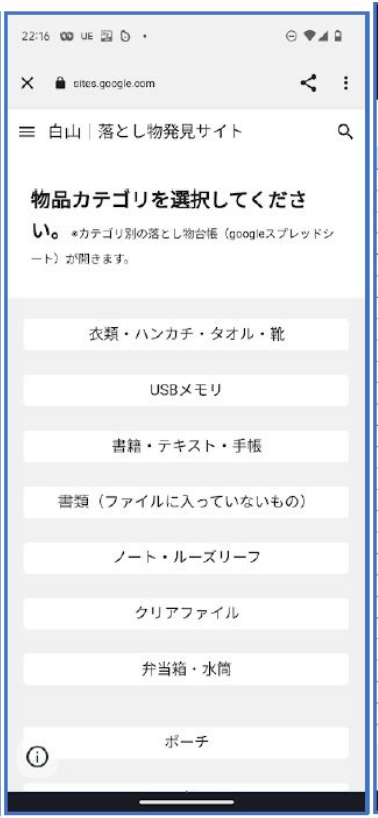
TOYO-Navi機能

- 各種FAQや情報ソースアクセスのためのプラットフォーム
- HP上に散逸している情報を学生視点で逆引き的に集約
- カテゴリー大分類から学生が求めているメインコンテンツに２タップ程度でアクセス可能
- 目的に応じた検索にも対応
- Google Work Space(GWS)を活用したデータ連携により、業務DXを推進し業務時間の削減に貢献



（２）教育ＤＸ推進基本計画１

（例）落とし物発見サイト



	特徴（柄・中身）	色	拾得場所
	Apple純正	白	総合ス
		黒	1号館
		白	1号館
	GREEN HOUSE	白	1号館
	クレヨンしんちゃんのカバ	その他	その他
	タイプC	黒	3号館
		白	6号館
	ベージュ	その他	図書館
	ケース内右のみ	白	10号館
	イヤホンジャック端子、カ	黒	3号館
	柄などはなし	銀	4号館
		白	1号館
		白	1号館
	中身なし	黒	6号館
		白	6号館
	RAZER 黒い紐がついている	黒	3号館
	中身なし	白	4号館
	イヤホンなし	白	6号館
		黒	10号館
	YAMAHA	紫	6号館
	小さい、カナル型	黒	6号館
		白	1号館
	右側のみ、小さい	紫	図書館
	ケースのみ、蓋部分がうっ	白	6号館
	スヌーピーのクリップがつ	黒	その他
	SONY	黒	1号館

・キーワード検索により学生が必要とする情報へ最短で到達。情報の海で学生を迷わせない。

（２）教育ＤＸ推進基本計画１

・落とし物発見サイトでは170時間の業務削減。
GWSを活用した業務DXの推進により各部署でも業務時間の削減を達成。

手続きの電子化・ペーパレス化

INIADや情報企画課「すきまのIT相談室」との部署間連携により、
各所の手続きの効率化（時間短縮・ミス防止）を進めています。

第７波　残業３ｈ/日の状況　　第８波　残業１ｈ/日程度に短縮

メール受付＆個別電話

Googleフォーム×スプレッドシート
×自動配信メール

コロナ感染の連絡と支援措置対応（学生部）

42時間短縮/年

エクセル提出＆押印

Googleフォーム×スプレッドシート
×自動配信メール

清掃会社の業務日報チェック（管財部）

郵送×手書き
集約・チェック作業

280時間短縮/年

GoogleAppシート（簡易アプリ）
×スプレッドシート

教員の出向コマ・時間割編成の準備（教務部）

170時間短縮/年

ショーケース＆電話対応

Googleサイト×スプレッドシート
アプリから落とし物を発見できる。

学内拾得物の学生対応（学生部）

（２）教育ＤＸ推進基本計画１

■災害発生時の学生・教職員安否確認

・かねてより検討していたBCP（Business Continuity Plan＝事業継続計画）の一環として、公式アプリのプッシュ通知を活用した安否確認を能登半島地震において実施。

・90%以上の安否を迅速に把握。被災４県が帰省先の学生は「100%」把握。

学生アプリ使用率 99%

キャンパスライフの羅針盤

授業時間割、シラバス、授業の出欠席、奨学金情報、留学、就職支援、サークルなど、キャンパスライフに欠かせないあらゆる情報を手元に。

一人ひとりの成長のために

アプリを通じて学生が自らの学びの旅を記録。他の学生との共感を得たり、一部AIによるフィードバックを得られたりするなど、一人ひとりの学生の成長に繋がるよう、学びの成果や目標管理などに活用できる機能を搭載。

安心なキャンパスライフを過ごすために

2024年1月 能登半島地震発生
安否確認を全学生（3万人）に実施

91.3%の学生が回答

石川県、富山県、福井県、新潟県の帰省先住所の学生は把握100%

▼

被災した学生の経済支援、授業支援の速やかな対応が可能に。

（２）教育ＤＸ推進基本計画１

■データ利活用に向けた取り組み

「東洋大学公式アプリ」や業務DX等を通じて得られた分析データや知見は、次の通り活用されている。

①「東洋大学公式アプリ」と連携したログの分析・可視化

②部署間の連携データ利活用

③学習成果の把握と指導充実のためのデータ利活用

（２）教育ＤＸ推進基本計画１

①「東洋大学公式アプリ」と連携したログの分析・可視化

・公式アプリのログは秘匿性を担保したうえで、統計・分析可能な状態で管理しており、「TOYO DataPortal」にて学内限定で公開。

・Googleアナリティクスにより、各種統計情報をセミリアルタイムで確認可能。

・高等教育推進センターでは多様なデータ分析のため、Google Cloud PlatformのBigQueryに学務システムデータを格納し分析用プラットフォームを構築。

・国際教育センターの教育プログラムではTGLポイント、TOEICスコア、成績との相関、論理的な思考力と履修科目の相関関係を学部からのリクエストに応じて分析結果を共有。

・学内のデータリクエストに応じて柔軟な分析データ提供を実現。

（２）教育ＤＸ推進基本計画１

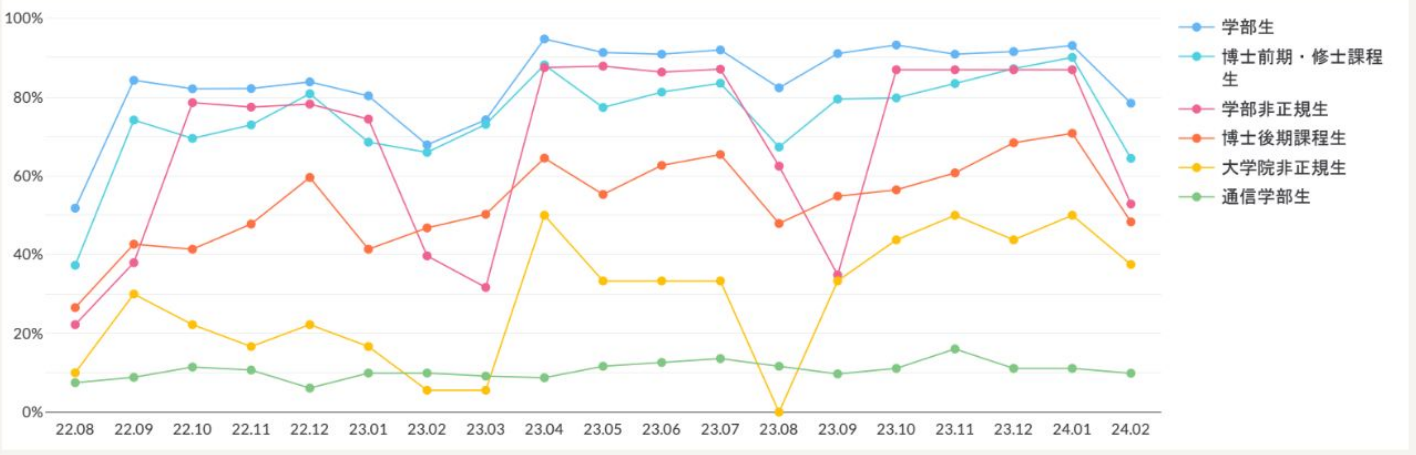
TOYO data portal

- HOME
- 公式アプリ統計情報
  - **アクティブ率**
  - スクリーンビュー数
  - INFO
  - DISCOVER
  - NAVI
  - JOURNEY
  - TOYO-PASS
  - CLASS
  - 検索
  - ゲスト
- 各種統計情報 LINK 集
- データリクエスト

月別推移

アクティブ率(%)：当該年月にアプリを利用したユーザー数 / 学生数

← **アクティブ率｜月別推移　＝当該年月にアプリを利用**　集計期間　年度



学生種別	22.08	22.09	22.10	22.11	22.12	23.01	23.02	23.03	23.04	23.05	23.06	23.07	23.08	23.09	23.10	23.11	23
学部生	51.8%	84.3%	82.1%	82.2%	83.9%	80.3%	67.9%	74.2%	94.8%	91.3%	90.9%	92.0%	82.4%	91.1%	93.3%	90.9%	91.
博士前期・修士課程生	37.3%	74.2%	69.5%	73.0%	80.9%	68.6%	66.0%	73.1%	88.2%	77.4%	81.3%	83.5%	67.3%	79.5%	79.8%	83.5%	87.
学部非正規生	22.2%	38.0%	78.6%	77.5%	78.2%	74.4%	39.7%	31.7%	87.5%	87.9%	86.4%	87.1%	62.5%	34.8%	87.0%	87.0%	87.
博士後期課程生	26.5%	42.7%	41.4%	47.8%	59.6%	41.4%	46.8%	50.2%	64.5%	55.3%	62.7%	65.4%	47.9%	54.8%	56.5%	60.8%	68.
大学院非正規生	10.0%	30.0%	22.2%	16.7%	22.2%	16.7%	5.6%	5.6%	50.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	43.8%	50.0%	43.
通信学部生	7.5%	8.8%	11.5%	10.7%	6.1%	9.9%	9.9%	9.2%	8.7%	11.7%	12.6%	13.6%	11.7%	9.7%	11.1%	16.0%	11.
総計	**50.9%**	**83.2%**	**81.2%**	**81.4%**	**83.2%**	**79.4%**	**67.2%**	**73.4%**	**94.1%**	**90.4%**	**90.2%**	**91.3%**	**81.3%**	**89.8%**	**92.4%**	**90.3%**	**91.**

1 / 1 ページ目

（２）教育ＤＸ推進基本計画１

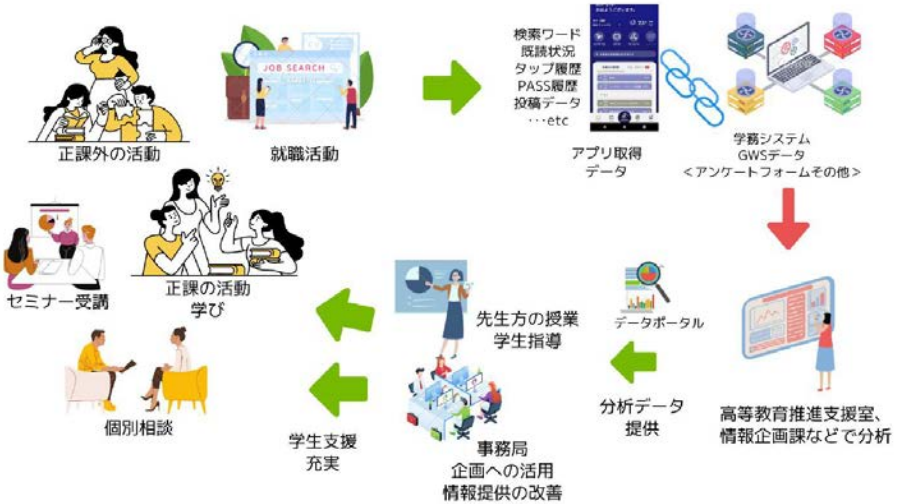
②部署間の連携データ利活用

・2023年3月学長より「学生支援等に係るデータ活用の推進に向けて（依頼）」を発信。

・国際部、就職キャリア支援部・学生部（学生生活支援）をデータ利活用特区に指定。

・「3万人のLearning Journeyの羅針盤」として、データ蓄積→データ利活用フェーズへの新たな局面へ。

データ活用によるLearning Journeyの充実サイクルのイメージ



データ活用をもとにした支援策の充実のイメージ例（特区的推進の例）

（1）就職キャリア支援関連（就職キャリア支援部）
①低学年のキャリア形成に関する動機付け
②インターンシップ、セミナーその他イベントに係る学生の主体的行動の促進
③ターゲットを絞った就職活動中の学生支援の充実
④就職結果と学び（成績・入試・正課外学生体験など）の結び付け

（2）留学・語学力向上支援関連（国際教育センター・国際部）
①留学や語学資格・スコア向上の意欲促進
②日本人学生と留学生との交流機会の創出につなげる情報提供
③留学中・後の学生体験に係る積極的な情報発信＜後輩や仲間たちへの情報提供＞

（3）その他学生支援関連（学生部）
①学生の傾向などの把握
②支援内容（キャンパスアメニティ、相談体制）などの改善

諸委員会、関係部署との連絡調整を丁寧に行いながら進めてまいります。
学生支援の充実につなげていくよう、ご理解のほどお願いいたします。

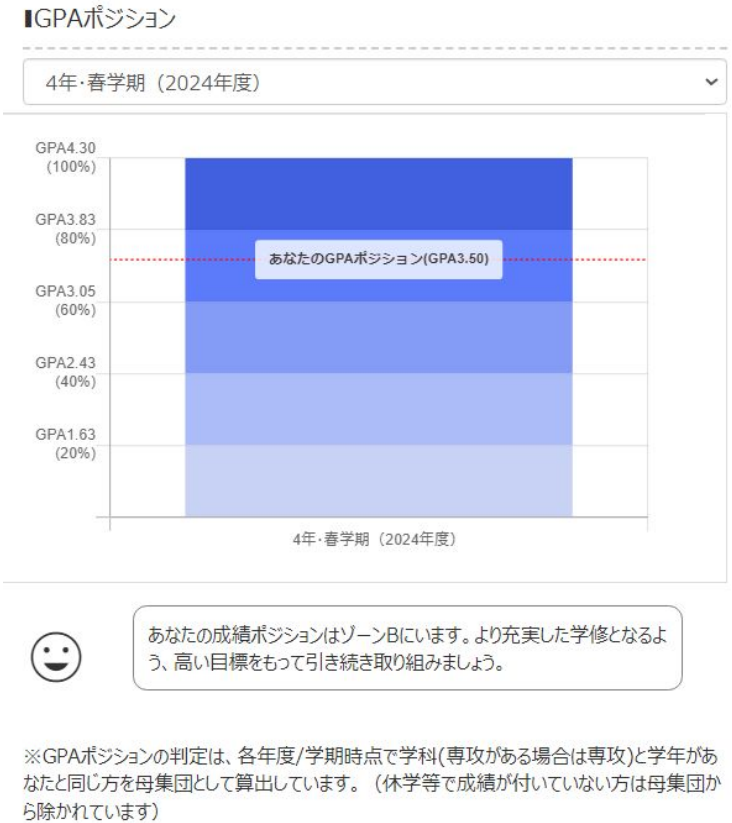
（２）教育ＤＸ推進基本計画１

③学習成果の把握と指導充実のためのデータ利活用（学修成果システム）

- 学生の成績確認
  成績表の閲覧
  ↓
  （学修成果システムにより）
  学習成果の測定結果把握、GPAポジションの確認へ

- 入学～卒業のGPA推移をグラフ化し、学生の自己省察へと繋げる。

- 授業科目とDPを対応させ、成績評価結果から学習の到達度を視覚的に捉える。



学科平均比較

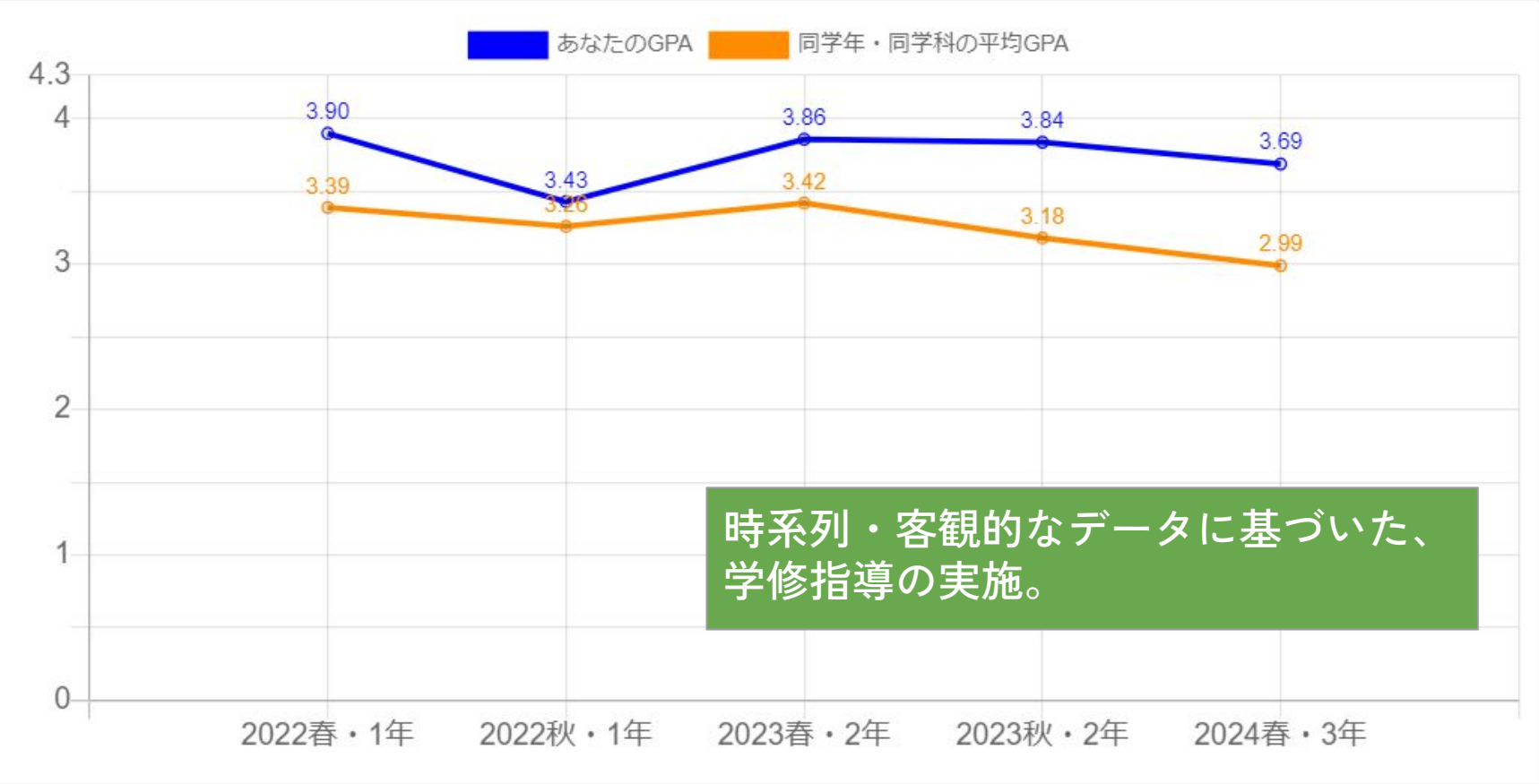
	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
DP項目別GPA	3.40	3.77	2.72	3.85	4.30	4.12
同学科・同学年平均	3.01	3.42	2.89	2.86	3.81	2.60

あなたの学科・専攻の「科目とDP項目の対応表」

「科目とDP項目の対応表」の説明

No	科目群	履修科目	修得単位	評価	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
1	選択必修科目	消費情報論	2	B		○	◎			
2	選択必修科目	マスコミ文章作法Ａ	2	S				◎		◎
3	選択必修科目	社会情報システム論	2	A	○	○		○		○
4	選択必修科目	ウェブ情報サービス論	2	A			○	◎		◎

▮学期GPAの推移　グラフ切替：　累計GPAにする



時系列・客観的なデータに基づいた、
学修指導の実施。

（２）教育ＤＸ推進基本計画１

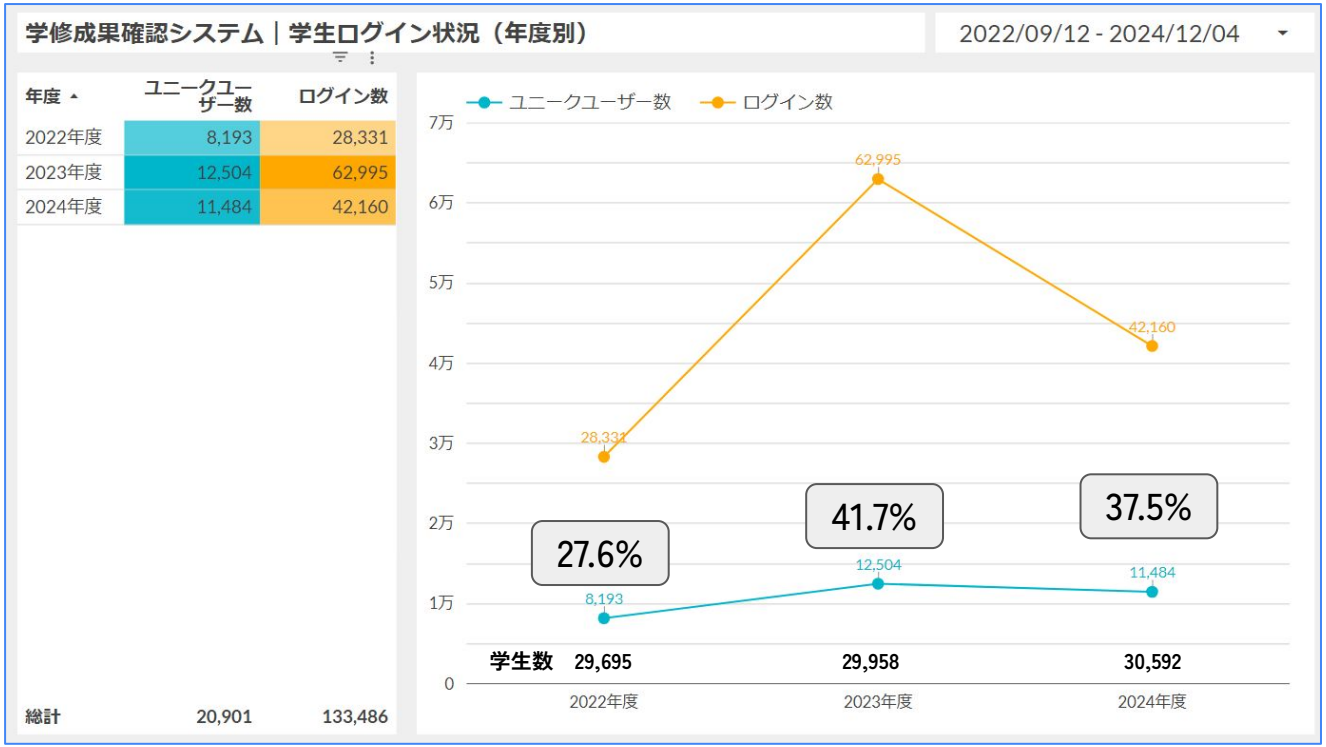
■計画１では２つのアウトプット指標・アウトカム指標を設定している。

①アウトプット指標：公式アプリを経由して、学生自信のGPAポジションの確認や学習計画上のアドバイスコメントの閲覧者数

（目標）全学部生の70%

（実績）2024/12/4現在

37.5%



年度	ユニークユーザー数	ログイン数
2022年度	8,193	28,331
2023年度	12,504	62,995
2024年度	11,484	42,160
総計	20,901	133,486

（２）教育ＤＸ推進基本計画１

②アウトカム指標：在学生アンケートで取得している学生満足度「東洋大学に満足していますか。」の向上
（目標）前年度よりアップすること
（実績）大学全体の集計結果は下表のとおり

	2019年度 回答　8,326名	2021年度 回答　11,522名	2022年度 回答　6,750名	2023年度 回答　6,784名
１．満足している。	31.0 %	34.4 %	39.7 %	45.7 %
２．やや満足している。	48.8 %	47.5 %	47.4 %	43.6 %
３．あまり満足していない。	14.1 %	13.9 %	9.5 %	8.2 %
４．満足していない。	6.1 %	4.2 %	3.4 %	2.6 %

「満足している」「やや満足している」の合計　87.1%　→　89.3%（2.2%⬆）

※2020年度は新型コロナウイルス対策を目的とした調査としたため、大幅に設問を変更したため対象外とする。

第２章

教育ＤＸ推進基本計画について

（１）計画策定の経緯と計画の概要
（２）教育ＤＸ推進基本計画１
　　「入学から卒業まで一貫した教育情報のデータ統合とAI解析結果の最適活用」
（３）教育ＤＸ推進基本計画２
　　「オンキャンパスとオフキャンパスの学習スタイルの高度化と多様化」
（４）教育ＤＸ推進基本計画３～５

（３）教育ＤＸ推進基本計画２

教育DX推進基本計画２における取り組み内容と、設定した指標の達成状況について報告する。

計画２：オンキャンパスとオフキャンパスの学習スタイルの高度化と多様化

授業運営において、対面・非対面（オンライン授業）のそれぞれの長所を生かし、学生の柔軟な学習形態を推進するため、カリキュラム＞授業科目＞コース
の３階層に分けて計画を設定。

（３）教育ＤＸ推進基本計画２

１．カリキュラムレベル

①全キャンパス共通基盤教育授業（2025年度カリキュラムより）

「東洋大学スタンダード」として掲げる全学的共通目標において、所属学部の専門性に制限されることなく、学生が幅広い学問分野から構成される基盤教育科目群の授業を履修可能に（630科目）。

オンライン授業により、キャンパス間移動が必要で受講できなかった授業科目が履修可能に。学生の履修柔軟性が向上。

例）エンジニアリングに興味をもった文学部の学生が、理工学部の「工学概論」を履修する。

②１・２部間の合同メディア授業

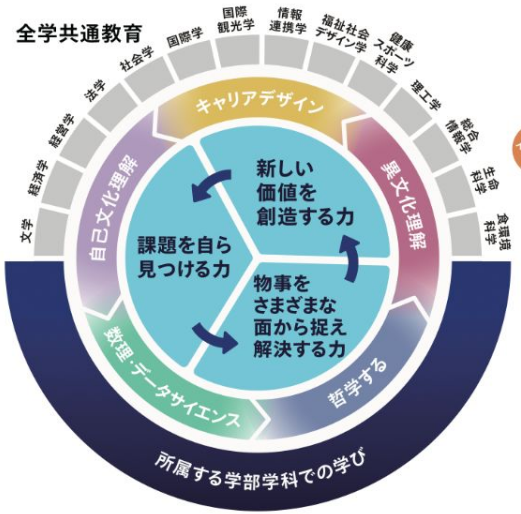
２部（夜間）学生は１日２時限の授業時間割枠しかない。その限られた時間を有効利用するため、１部（昼間）学生との合同メディア授業を展開する。

「総合知」教育、始動

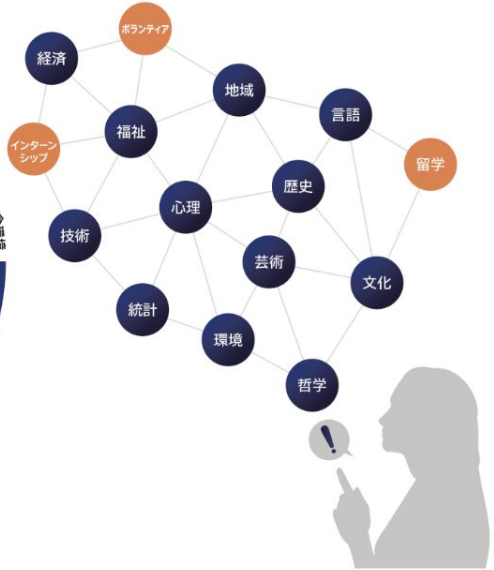
NEW 2025年4月 START

2025年4月、14学部すべての学びを柔軟に履修できる新しいカリキュラムをスタート

2025年4月より、
すべてのキャンパスの多様な学問の連携、
融合を図る「総合知」教育をスタート。
各学部の専門性に依拠した学問を集結し、
所属学部や領域を超えた
新しい総合的な学びを創出します。
自分の専門性を主体的に磨き、
異分野にチャレンジする学生を育てます。



一人ひとりに最適化した Learning Journey



Copyright® TOYO University. All rights reserved.

（３）教育ＤＸ推進基本計画２

■総合知教育の履修をAIによってサポート。

・全学基盤教育、全学共通教育（630科目）の中から学生のキャリア・関心等に近いと思われる履修科目をAIが提案する。

・提案のみならず、最終的に学生自身の目でシラバスを確認させる。

（３）教育ＤＸ推進基本計画２

２．科目レベル

①セッション科目（集中期間）のメディア授業
　過密履修の緩和、不合格科目再履修の早期実現＝学習意欲低下の抑止に。

②海外オンライン留学・オンラインインターンシップ
　海外大学とのオンライン授業、オンラインによる企業とのインターンシップの実現。

③語学科目等の習熟度別授業運営
　語学授業などの習熟度別クラス設計において、学修プラットフォームを共通化。

④基礎的科目（知識修得型授業科目）のオンデマンド授業の実施
　単位僅少者などに対し、基礎的な授業科目においてオンデマンド型授業として事前録画した授業を配信。繰り返し学習が可能となり、教員は学生の理解度や目標到達度、フィードバックに専念。

（３）教育ＤＸ推進基本計画２

３．コースレベル

①ブレンド型授業の実施
　全15回の授業において、対面とメディア授業を織り交ぜ教育効果を高める。

②「知」の交流・創造がされる反転授業の実施
　反転授業により批判的思考を養い、他者との知見交換を促進する。探究方法論・対象の本質を論理的妥当性から見抜く力を鍛える。

③学外人材との共同授業実施
　実務家、研究所・企業その他の学外人材をゲスト講師に招聘。大学院では他大学との共同授業の実施。

④大学院科目や高学年科目の先行履修
　学習意欲の高い学生に向けて先行履修制度を柔軟に用いる。学修機会の拡大、学習意欲の向上、キャリアパスの形成支援を通じて大学院進学を促進。

⑤形成的評価の実施
　定期試験・レポートによる一定期間の学習成果を図る総合的評価から、CLMSを利用した学修ログをもとに学修プロセスを評価する形成的評価の実現。

（３）教育ＤＸ推進基本計画２

■現在の取り組み状況

　2025年4月からの新カリキュラム（2025年度カリキュラム）では「3万人のLearning Journey」として、学生が主体的・知的な動機により所属学部の専門性に拘束されない学問分野の授業科目履修を促進し、オンキャンパス・オフキャンパスにおける学生の学習分野横断型教育の実現を目指している。

　教育課程表において「全学基盤教育科目・全学共通教育科目」を総合知領域と定義し、各学部の専門領域から授業科目が提供される。

　4キャンパス14学部を擁する総合大学としてのメリットを生かし、学生が多様な学問分野から知見を獲得することを通じて、東洋大学の教育的プレゼンスが高まる。

（３）教育ＤＸ推進基本計画２

■計画２ではアウトプット指標・アウトカム指標を設定している。

①アウトプット指標：非対面授業（オンライン授業）の開講状況

（目標）非対面単位認定科目の開講数　5%程度

（実績）2024年度における学部・大学院の集計結果は下表のとおり

課程	コース数	前年同期比	非対面コース数	非対面授業率
学部	12,815	＋378	515	4.0%
大学院	2,189	＋83	132	6.0%
合計	15,004	＋461	647	4.3%

（３）教育ＤＸ推進基本計画２

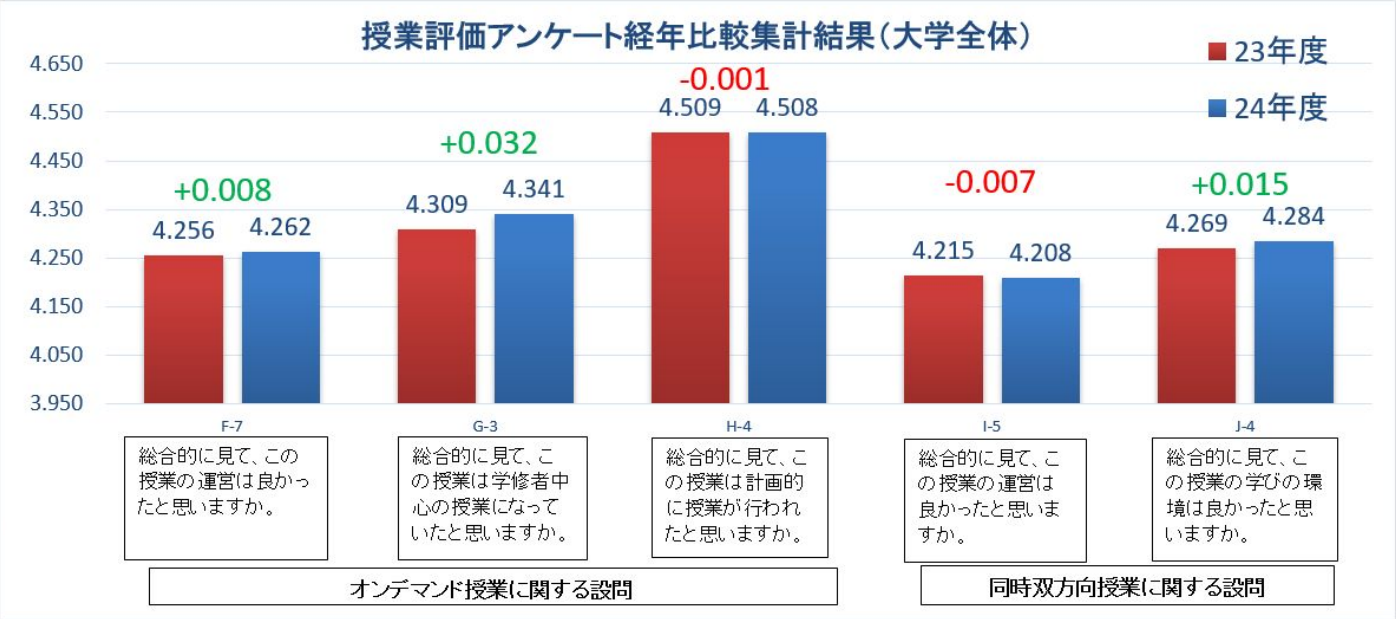
②アウトカム指標：授業評価アンケート結果のうち非対面単位認定科目の経年比較

（目標）目標：授業のわかりやすさ、学習内容の理解、到達目標の達成のポイントが前年度より上昇すること。

（実績）2024年度春学期（4月～8月）については下記のとおり。

2024年度秋学期（9月～1月）については2025年3月上旬に公表予定。

結果詳細は本学HPにて公開



第２章

教育ＤＸ推進基本計画について

（１）計画策定の経緯と計画の概要
（２）教育ＤＸ推進基本計画１
　　「入学から卒業まで一貫した教育情報のデータ統合とAI解析結果の最適活用」
（３）教育ＤＸ推進基本計画２
　　「オンキャンパスとオフキャンパスの学習スタイルの高度化と多様化」
（４）教育ＤＸ推進基本計画３～５

（４）教育ＤＸ推進基本計画３～５

【参考】

教育DX推進基本計画３～５については評価対象外項目であるため、項目と主な取り組みについてのみ報告する。

計画３：建学の精神の具現化を目的としたリカレント教育の世界展開

- 建学の精神に基づく講師派遣事業によるデジタルを活用したリカレント教育
- オンラインを活用したビジネス日本語教育の実践
- 世界的視座からの社会課題解決に資する人材育成を試みるSDGｓ教育
- 情報連携学部（INIAD）における高度IoT＆AI技術者を育成するための「社会人向け学び直し」“Open IoT教育プログラム”の展開
- 海外に向けたオンラインリカレント教育（実証実験中）

（４）教育ＤＸ推進基本計画３～５

■「OpenIoT教育プログラム」の取り組み

・対面、オンデマンド、ハイブリッド開講による「学習意欲の高い社会人」に配慮した開講形態
・TRON OS（ITRON）を継承した、軽量で省リソースなリアルタイムOS、μT-Kernel 3.0の制御に習熟
・クラウド型開発プラットフォームIoT-Engine開発スキルを修得
・Webアプリケーション開発、生成系AIとIoT制御に関する最新技術の理解

超軽量組込OSの利点を生かした、自律走行型ロボットの制御演習

（４）教育ＤＸ推進基本計画３～５

計画４：学生の成長を中心に据えた体系性あるFD・SDプログラムの構築と学内業務の断捨離

・デジタル教材作成のためのICTサポート体制の充実
・FD・SDプログラムの充実
　-教職員におけるデジタル活用人材・デジタルインフルエンサーの育成
　-学修ログ解析を中心としたカリキュラムマネジメントプログラムの支援
　-授業デザインFDと授業設計プロフェッショナルによるコンサルティング
　-TA/SA研修プログラムの実施
　-LA（ラーニングアシスタント）の新設
　-教学マネジメントFD/SDプログラムの開発
・デジタルやAI活用による学内業務の断捨離と超効率化

計画５：デジタル活用推進本部による推進体制と外部人材を採り入れた評価体制の構築

・デジタル活用推進本部を設置し本計画を推進しており、評価体制は学長を本部長とする大学評価統括本部において今般の外部評価を実施している。

TOYO
UNIVERSITY